

国際子ども図書館 の 窓

子どもの本は
世界をつなぎ、
未来を拓く！

第 21 号

2021.10

表紙デザイン：熊谷博人氏

国際子ども図書館開館 20 周年を迎えて



国際子ども図書館は、2020（令和 2）年に開館 20 周年を迎えました。2000（平成 12）年の設立以来、子どもの本や読書に関わる内外の皆様のご支援、ご協力のもと、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」の理念に基づき、子どもの読書活動を支える多様な事業に取り組んでまいりました。

2015（平成 27）年には新館アーチ棟が完成し、資料の増加に対応する書庫スペースを確保すると同時に、「調べものの部屋」の開室など、サービスの拡充が図られ、より多くの来館者や海外からの訪問、視察の方々を迎えることができました。また、内外の関連機関や、上野地区周辺の文化機関と連携した取組も実績を重ね、その存在感を確かなものとしてきて

おります。

開館 20 周年として記念すべき 2020（令和 2）年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館や相次ぐイベントの中止などを余儀なくされ、残念ながら予測し得なかった一年となりました。しかし一方で、これまでのサービスのあり方を見直すとともに、いま国立の児童書専門図書館が何をすべきなのか、改めて考えさせられた年でもありました。

国立国会図書館は、情報技術の進展と加速する社会のデジタルシフトに対応し、情報資源と様々な知的活動を的確につなぐことを目的として、2025（令和 7）年までの 5 年間のビジョン「国立国会図書館のデジタルシフト」を決定し公表いたしました。国際子ども図書館においても、これまで取り組んできた各種の事業を総括し、それらをデジタル化が進展する社会に対応させた新たな事業計画を策定いたしました。これからは新たな計画のもと、特に読書や学習のきっかけとなるようなオンラインサービスの拡充や情報発信の強化に、より一層努めてまいり所存です。

国際子ども図書館は、内外の関連機関との連携をさらに緊密にし、図書館や児童書を取り巻く環境の変化に対応しながら、子どもに本や情報を手渡すための支援ができるよう取り組んでまいります。これからもご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和 3 年 10 月

国立国会図書館長 吉永 元信

読書の魅力をすべての子どもたちへ



『国際子ども図書館の窓』第 21 号をお届けいたします。2020（令和 2）年は、国際子ども図書館開館 20 周年を記念する年でした。この号では、2020（令和 2）年 4 月から 1 年間の活動だけでなく、「児童書専門図書館」、「子どもと本のふれあいの場」、「子どもの本のミュージアム」という三つの基本的役割に取り組む国際子ども図書館の 20 年間のあゆみをご紹介します。

国際子ども図書館は 2000（平成 12）年に第一期開館（部分開館）、2002（平成 14）年に全面開館して以来、多くの方にご来館いただきました。2015（平成 27）年には新館アーチ棟が完成しサービスを拡充したことで、リニューアル前に減少気味だった来館者が増加に転じていました。ところが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、2020（令和 2）年度は来館サービスを全面休止している状況からのスタートとなりました。約 3 か月の全面休止を経て、7 月 1 日からは全面的にサービスを再開しましたが、現在も整理券配布による入館制限をはじめとする感染防止対策をとりながらのサービスが続いています。

多くの図書館でも同様の状況だったのではないのでしょうか。そのような中で、新たなサービスにチャレンジする年にもなりました。国際子ども図書館では、年度の後半には、研修、見学会、関係機関との懇談会などをオンライン開催にするほか、動画配信にも取り組みました。研修や懇談会では、このコロナ禍の中でも、公共図書館や学校図書館、関係機関が様々な工夫をして子どもの読書活動を支援しようとしている事例をご紹介いただき、大変励まされる思いがいたしました。

国際子ども図書館は、2021（令和 3）年 3 月に 5 年間を対象とする「国際子ども図書館基本計画 2021-2025」を策定しました。この計画は、これまで活動の指針としてきた「国際子ども図書館第 2 次基本計画」と「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画 2015（2019 改訂版）」の後継であるとともに、国立国会図書館のビジョン「国立国会図書館のデジタルシフト」を受けて、デジタル化が進展する社会の中で重点的に取り組むサービスを示したものです。直近にコロナ禍で来館サービスに限らないサービスの必要性を強く感じた経験があったことから、多くがデジタルを意識した、インターネットや身近な図書館で活用していただくことで読書活動を支援することを目指すサービスとなりました。

これまで国際子ども図書館で実践してきたサービスの経験を活かし、すべての子どもたちの読書活動を支えられるように、これからも多様な方法を模索しながら子どもの本と読書の魅力をお伝えしていきたいと思えます。

皆様のご支援、そしてご協力を今後ともよろしくお願いいたします。

令和 3 年 10 月

国立国会図書館国際子ども図書館長 堀 純子



目次

【国際子ども図書館開館 20 周年を迎えて】	吉永 元信
【読書の魅力をすべての子どもたちへ】	堀 純子
【特集 国際子ども図書館開館 20 周年】	
国際子ども図書館の 20 年のあゆみとこれから	堀 純子
「国際子ども図書館基本計画 2021-2025」	北村 弥生
国際子ども図書館開館 20 周年に向けて～一利用者の立場から～	白井 澄子
国際子ども図書館の 20 年	
① 児童書の資料・情報センターとしての蔵書構築	資料情報課書誌情報係
② 子どもと本をつなぐサービスのあゆみ	児童サービス課
③ 展示会のあゆみ	資料情報課展示係
開館 20 周年記念催物	
開館 20 周年記念メッセージの公開	企画協力課
国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会	
「平成を彩った絵本作家たち」	資料情報課
国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会関連講演会	
「絵本への期待—平成の絵本作家と編集者、そして読者—」	資料情報課
国際子ども図書館開館 20 周年記念 中高生向けトークイベント	児童サービス課
開館 20 周年記念コンテンツ「SDGs と子どもの本」	企画協力課
【活動報告】	
1 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応	
2 児童書専門図書館としての活動	
2.1 資料・情報センターとしての機能	
2.2 子どもの読書活動推進支援	
2.3 国際的な交流活動	
3 子どもと本のふれあいの場としての活動	
3.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス	

- 3.2 [子どものための連携イベント](#)
- 3.3 [子ども向けの情報発信](#)

- 4 [子どもの本のミュージアムとしての活動](#)
 - 4.1 [館内展示](#)
 - 4.2 [電子展示会](#)

- 5 [国内外の諸機関との連携・協力、広報活動等](#)
 - 5.1 [講演会等](#)
 - 5.2 [広報活動](#)
 - 5.3 [関係者会議](#)
 - 5.4 [見学・案内](#)
 - 5.5 [刊行物](#)

[【令和2年4月から令和3年3月までの主なできごと】](#)

[【数字で見る国際子ども図書館】](#)

[【国際子ども図書館の窓 第1号～第20号総目次】](#)

[【国際子ども図書館利用案内】](#)

国際子ども図書館の 20 年のあゆみとこれから

堀 純子

国際子ども図書館は、子どもの本と読書にかかわる多くの人々の夢と期待を受けて開館し、2015（平成 27）年の新館建築によるリニューアルを経て、2020（令和 2）年に開館 20 周年を迎えた。この 20 年のあゆみを振り返り、今後を展望したい。

「児童書のナショナル・センター」

国際子ども図書館の開館当時の構想「児童書センター（仮称）基本計画」（平成 8 年策定。のちに「国際子ども図書館基本計画」と名称変更。以下、基本計画）では、国内外の児童書と研究資料を広範囲に収集・保存し、子どもへのサービスの第一線にある図書館活動や調査・研究活動を支援する児童書のナショナル・センターとなることを目標としていた。この目標は、その後、施設の増築を視野に入れて 2011（平成 23）年に策定された「国際子ども図書館第 2 次基本計画」（以下、第 2 次基本計画）、そして 2021（令和 3）年度からの 5 年間を対象とする新しい「国際子ども図書館基本計画 2021-2025」（以下、基本計画 2021）においても、「児童書専門図書館」として基本的な役割に掲げ、継続して重点的に取り組んでいる。

第一期開館当初の所蔵資料は 1948（昭和 23）年の納本制度施行後の児童書や開館に備え急遽収集した海外の児童書約 4 万冊と約 600 タイトルの逐次刊行物に限られていたが、その後、納本に加えて購入や寄贈により着実に国内外の児童書等の収集を進め、収蔵能力もアーチ棟（新館）完成により約 105 万冊となった。2021（令和 3）年 3 月末現在、書庫に図書等約 53 万点、逐次刊行物約 2,000 タイトル（約 11 万点）を所蔵し、各閲覧室での開架資料を含めると約 71 万点の豊富な蔵書を基盤として、児童書の専門図書館としての各種サービスを提供している。蔵書構築や児童書の魅力を紹介する展示会のあゆみについては本号掲載の記事をご覧ください。

児童書の電子図書館

限られた所蔵資料を補い、国内の児童書全ての所蔵状況や内容に関する情報を提供し、資料にアクセスしやすくする電子図書館機能の実現は、開館した際の重要な課題の一つであった。直接来館することができない全国の子どものように等しくサービスを受ける機会を保障するためにも、電子図書館機能が有効と考えられていた。

国内刊行の児童書の遡及入力による書誌データの整備、大阪国際児童文学館等 7 機関が参加する「児童書総合目録」による児童書の所在情報の共有、基本的な書誌へのあらすじ情報等のアクセスポイントの拡充、外国語に翻訳された日本の児童書情報の提供など、児童サービスに不可欠な児童書の情報を主にデータベースで提供してきた。資料のデジタル化にも開館当初から取り組んでおり、1955（昭和 30）年以前の児童書を提供する「児童書デジタルライブラリー」に加え、1968（昭和 43）年以前の国

内刊行図書約4万冊、1970年代までの国内雑誌2万冊をおおむねデジタル化した。

国際子ども図書館の電子図書館の取組は、国立国会図書館全体の電子図書館事業に先行して始まったが、その後電子図書館事業の進捗に伴い、独自のデータベースや「児童書デジタルライブラリー」は、10年程度でより広範な資料を対象とする国立国会図書館の情報基盤の一部として吸収された。東京本館、関西館、国際子ども図書館の三施設の情報システムの一体化が図られ、2015（平成27）年にアーチ棟に開室した児童書研究資料室では、他の施設と同様に国立国会図書館デジタルコレクションや電子ジャーナル等が利用できる環境を整備し、調査研究のための機能を強化した。

連携協力と「国際」子ども図書館

基本計画には、電子図書館機能を活用して全国各地の図書館や学校の施設にデジタルコンテンツを提供する非来館型サービスとともに、「子どもと本のふれあいの場」という展示、各種イベント、見学等による来館型の児童サービスを行うことが明記されている。「子どもと本のふれあいの場」は、第2次基本計画、基本計画2021でも基本的な役割として、積極的に取り組み実績を積んできている。児童サービスのあゆみについては本号掲載の記事をご覧ください。

国立国会図書館にとって経験もノウハウもない児童を対象としたサービスを国際子ども図書館で実施するために、開館当初には関連機関の経験豊かな専門家から多くの協力を得た。さらに、先に触れた電子図書館機能での児童書に関する各種情報の提供は、大阪国際児童文学館をはじめとする各図書館だけでなく、日本国際児童図書評議会、日本図書館協会、日本児童図書出版協会などの関連機関や児童書の出版社との連携の下に実現している。国際子ども図書館の活動は、こうした関連機関との連携協力によって支えられてきた面が大きい。

また、「国際」子ども図書館という名称にあるように、児童書のもつ国際的性格を活かし、子どもたちの異文化理解の促進を重要な任務として、国際的な関連機関との連携にも努めてきたことも特徴的である。職員を国際会議等に派遣し情報収集を図るほか、海外の著名な児童書に関する専門家、作家や画家を招いての講演会、各国の在日大使館等との連携によるイベント、日本ペンクラブとの共催での世界各国の子どもの本の今を伝える講演会等、国際色豊かな各種イベントをこれまでに40回以上開催してきた。中でも、ミュンヘン国際児童図書館長のバーバラ・シャリオット氏ら8名を招いて2000（平成12）年の開館直後に開催した国際シンポジウムには、日本に国立の児童書専門図書館ができたことへの喜びと期待の大きさが伺え印象的である。そのほか、ホジェル・メロ氏（2014年画家賞）、曹文軒氏（2016年作家賞）、イーゴリ・オレイニコフ氏（2018年画家賞）、角野栄子氏（2018年作家賞）といった国際アンデルセン賞受賞者による講演会では、世界的な児童文学作品を広く紹介してきた。クラウス・コルドン氏（ドイツ、児童文学作家）、エミリー・グラヴェット氏（英国、画家・絵本作家）、ホジェル・メロ氏（ブラジル、画家・絵本作家）については、大阪、宮城、福島などの公共図書館でも共催による講演会やイベントを開催することができ、多文化への理解や国際交流の推進に貢献することができたのではないだろうか。

デジタルシフト時代に向けて

子どもの読書活動推進については、2010（平成 22）年に「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画 2010」、2015（平成 27）年には後継の「子どもの読書活動推進支援計画 2015」を策定し、これらの計画に沿って、子どもの読書活動推進を第一線で担う全国の公共図書館、学校図書館、文庫等の児童サービス関係者を対象に支援を行ってきた。新しい基本計画 2021 は、計画全体が子どもの読書活動の支援を意識したものだが、基本計画以来一貫して重要視してきた児童サービス関係者を主な対象とした研修や交流会の開催に、引き続き重点的に取り組むこととしている。

しかし、2019（令和元）年度末から 2020（令和 2）年度前半には新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、約 3 か月の臨時休館、展示会の延期のほか、各種イベント、研修、国際シンポジウムなども中止せざるを得なかった。海外の専門家による講演会や児童サービス関係者のための研修を、国際子ども図書館という場で開催できないということは、この 20 年の経験からは想像もし得ない事態だった。何とかこの状況を打開するために、2020（令和 2）年度は、これまで開催してきた児童文学連続講座や児童サービス研究交流会といった研修についてはオンライン形式で開催、開館 20 周年記念として企画していた国際シンポジウム「SDGs と子どもの本—いま、図書館にできること」については国内外の有識者や作家によるメッセージ動画の配信、といずれも新しい手法で提供した。時間や場所に縛られないオンラインサービスの活用により、全国の関係者に参加していただける可能性は格段に広がったと思う。今後もテーマや手法を工夫しながら、より充実した内容で研修やイベントをお届けしたい。

国立国会図書館は、情報資源と様々な知的活動を的確につなげていくために、2021（令和 3）年度からの 5 年間で「国立国会図書館のデジタルシフト」推進期間と位置づけ、ユニバーサルアクセスの実現とそのためのデジタル情報基盤の拡充を図ることとしている。「国際子ども図書館基本計画 2021-2025」も同期間を対象とし、インターネットや身近な図書館でも子どもが本とふれあうことができるような、読書活動を支援する取組やコンテンツを拡充することを目指している。デジタルツールがあふれる情報社会の中に生き、学校での ICT 活用も進む子どもたちの読書活動を支援するためには、読書や学習に結びつくようなデジタルコンテンツは欠かせない。昨年度はコロナ禍という状況の中でオンラインサービスの重要性を実感したところでもある。これまでの経験から得た知見も活かしながら、公共図書館や学校図書館などの児童サービスの現場にとって有意義で魅力的なコンテンツの提供を進めたい。

子どもの本の可能性は、国際子ども図書館の理念「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」によく表現されている。次の時代を担う子どもたちが未来を拓き、社会の中で力強く生きるために、国際子ども図書館はこれからも、子どもの本と人、そして、人と人をつなぐ場としての図書館を目指して、時代の要請に応えて成長していきたい。

（国際子ども図書館長）

「国際子ども図書館基本計画 2021-2025」

北村 弥生

国際子ども図書館は、2021（令和 3）年 3 月、2021 年度からの 5 年間を対象とした新たな基本計画として「国際子ども図書館基本計画 2021-2025」（以下、基本計画 2021）を策定した。2015（平成 27）年度のリニューアル開館から 5 年が経過し、リニューアル開館後のサービスの基本方針を示すために 2011（平成 23）年に策定された「国際子ども図書館第 2 次基本計画」（以下、第 2 次基本計画）がその役割を終えたことと、子どもの読書活動推進支援の取組を示すために順次策定してきた「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画 2015（2019 改訂版）」（以下、読推計画 2015）が 2020（令和 2）年度に期限を迎えたことで、新たな計画が求められていた。

基本計画 2021 は、第 2 次基本計画で掲げた国際子ども図書館の使命と基本的な役割を継承しつつ、第 2 次基本計画と読推計画 2015 という二つの計画に基づき実施してきた取組を一体的に推進することを目的とするものである。これまでの成果を踏まえつつ、第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び国立国会図書館のビジョン「国立国会図書館のデジタルシフト」が掲げる方針を受けて、国際子ども図書館が 2025（令和 7）年度までに重点的に取り組む事項を、三つの基本的な役割に沿って示している。以下に概要を紹介する。

国際子ども図書館の使命

国際子ども図書館は、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」という理念の実現を引き続きその使命とし、その使命を果たすために、第 2 次基本計画で定めた三つの基本的な役割について、デジタル化が進展する社会に呼応した形で継承する。

児童書専門図書館としての役割

国際子ども図書館は、国内外の児童書及び関連資料を収集・保存・提供するとともに、児童書に関する専門的な情報を広く発信することにより、児童書や子どもの読書に関わる多様な活動を支援している。書庫の増床や児童書研究資料室の整備により、資料・情報センター機能の高度化が達成された。今後は、児童書へのアクセス向上や、児童サービス関係者を対象とした研修や関連機関との連携事業におけるオンラインサービスの活用や情報発信の強化に重点的に取り組んでいく。

- 児童書のデジタル化の推進と利用環境の充実
- 書誌データへの付加情報や情報発信型レファレンスの拡充
- 研修や交流会へのオンラインサービスの活用
- デジタル環境に応じたメディアやツールによる広報
- 職員の児童書や児童サービスに関する専門性の向上

子どもと本のふれあいの場としての役割

国際子ども図書館は、全ての子どもが本とふれあい、図書館や読書に親しむきっかけを提供している。施設の増築・改修によって年齢層別の閲覧室が整い、子どもの発達段階に応じた児童サービスを充実させてきた。今後は、感染症防止等の社会的要請に十分に対応しつつ、社会基盤としての図書館の役割を継続的に果たすため、インターネットや身近な図書館という場でも、子どもが本とふれあうことができるようなサービスを提供することがこれまで以上に重要である。

①子どもを読書に誘うための情報発信

- インターネットによる情報発信
- 「国立国会図書館キッズページ」を各年齢層に応じたコンテンツを提供する場としてリニューアル
- 読書や学習に役立つデジタルコンテンツの作成

②身近な図書館における読書活動への支援

- 児童サービスに役立つ情報の発信
- 図書館オリエンテーション等で活用できる調べもの体験プログラムの公開
- 多文化サービスに活用できる情報の提供

③国際子ども図書館における実践

- 子どものためのデジタルコンテンツの閲覧環境の整備
- 情報リテラシーに関する体験型プログラムの提供

子どもの本のミュージアムとしての役割

国際子ども図書館は、本の魅力に触れ、本に親しむ契機となる場として、様々な展示や催物を開催している。本のミュージアムにおける展示会に加え、日本の児童書の歴史を概観できる常設の児童書ギャラリーを開室し、企画展示を再構成した電子展示会を公開してきた。今後は、本のミュージアムを中心とした「子どもの本」のミュージアムという機能に加え、歴史的建造物という空間やインターネット上の電子展示会をより一層活用し、総合的に文化に親しむ場としての図書館の姿を実現する。

- 児童書の魅力を伝える企画展示の開催
- 誰もがアクセスできる新しい電子展示会の作成
- 子どもの本と共に音楽や美術等文化に親しむ場としての活用
- 国際子ども図書館の歴史を共有する企画展示の開催
- デジタル技術等の活用により、来館せずに国際子ども図書館を体感

(国際子ども図書館 主任司書)

国際子ども図書館開館 20 周年に向けて ～一利用者の立場から～

白井 澄子

はじめに

国際子ども図書館開館 20 周年、おめでとうございます！ 筆者は、2019（令和元）年度から国際子ども図書館の客員調査員として児童文学連続講座の監修をさせて頂いているが、今から 20 年前、日本初の国立の児童図書館が開館することを知った時の、「待ってました！」というワクワク感をよく覚えている。きょうは、僭越ながらこの場をお借りして、一利用者として国際子ども図書館（以下、ILCL の表記も使用する）の活動についての感想を述べさせていただき、児童文学連続講座についても触れたいと思う。

その前に、ILCL の開館に狂喜乱舞した私と児童図書館のかかわりを少しお話しさせていただきたい。私は、児童文学研究が盛んになり始めた 1970 年代後半に英米の子どもの本に興味を持ち、現地で勉強をしようと、短期間の予定でアメリカに行ったのだが、そこで児童図書館の魅力に取りつかれてしまった。そして、児童図書館や児童文学の分野で活躍をしていたシーラ・イーゴフの教えを受けたいと思い、カナダの図書館学校に入学した。それまでの私は、近くに公共図書館がなかったこともあり、大学の図書館の他に年に 2 回ほど国立国会図書館を利用するだけで、図書館に関しては「なんとなく敷居が高く、書店のほうが利用しやすい」というのが正直なところだった。しかしアメリカやカナダで、図書館はとても居心地がよくて利用価値が高い場所であることを知ったのだ。まだ舌の回らぬ幼い子どもや、孫へのプレゼント用の本について相談に来たお年寄り、さらには私のような外国人からの質問などに、快く応えて求めている本を手渡してくれるサービスに、私はすっかり魅了されてしまったのである。

2 年間の教育課程を終えてカナダの図書館員資格（日本では使えない！）を取得した私は、トロント公共図書館やアメリカ議会図書館などに併設されている児童図書部門等を訪問して帰国した。これらの図書館は蔵書数や建物の規模が大きいだけでなく、一般の公共図書館のリーダー的な役割も果たしていた。一方、私が帰国した 1980 年代の日本では、地域に密着した草の根的な文庫活動が盛んで、公共図書館の中には充実した児童書の蔵書を持ち優れた活動をしている図書館もあったが、全体としては未熟で、日本の児童サービスや子どもの読書全体のレベルをあげるには、指導的な役割を果たす国立の児童図書館が必要だ、というのが私の気持ちだった。実は、すでにその頃から国立児童図書館設立の構想は水面下で進んでいたのではないだろうか。1995（平成 7）年、国立国会図書館で児童図書館を作る計画が動き始め、ついに 2000（平成 12）年に旧帝国図書館の建物をリニューアルした国際子ども図書館が誕生した。

開館したばかりの ILCL に足を運んだ私は、重厚な建物に圧倒されつつも、調べ物をしたり館内を見学したりして充実した時を過ごしたことは、今でも忘れられない。大学で英語圏の児童文学を教えるようになっていた私にとって、日本の書籍だけでなく、海外の児童書や研究書も揃っている図書館は、まさに夢の図書館だった。しかもさらに再リニューアルが行われ、2015（平成 27）年にはアーチ棟が完成。提供されるサービスの幅もぐんと広がった。

では、20年の年月を経た現在のILCLの活動はどうだろうか、課題はあるのだろうか。

活動と利用者について

国際子ども図書館の活動理念である「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」は、まさに館名につけられた「国際」の意味をよく反映し、蔵書からもそのことがうかがえる。2020（令和2）年3月時点の蔵書数をみても、40万冊を超える蔵書のうち11万冊以上が海外の書籍であり、雑誌に関しても約2000タイトルのうち、191タイトルが海外のものである。そこには約160の国や地域の児童書や関連の資料が含まれているという。私が利用するのは主に英語圏の児童書、研究書、雑誌だが、児童書に関しては日本のものはもちろんのこと、英語圏の作品については古いところから比較的最近のものまでそろっていて、とても利用価値が高い。まさに、「児童書専門図書館としての役割」を果たしているといえるだろう。欲を言えば、賞をとった作品や話題になった作品はもう少し早く入手できるとさらに嬉しいのだが……。

従来の図書館では、利用者が資料を利用する時は館内で現物を手に取って読む、というのが一般的な利用方法だったが、最近では様変わりしてオンラインによる資料の閲覧が充実してきている。これに連動するのが、資料のデジタル化、電子ジャーナルの充実である。こうした流れに沿うかたちで、今年3月には「資料デジタル化基本計画2021-2025」が発表された。図書資料の劣化を食い止めるためと、今後の利用者サービスを考慮したものだが、デジタル化された書籍や電子ジャーナルを自宅のパソコンやスマホで閲覧できるようになれば、利用者にとっては非常にありがたいことだ。

こうした図書館機能と使い勝手の良さを利用者側から見るとどうだろうか。利用者がこれらのサービスを利用するためには、まずホームページで様々なサービスや機能を確認することになるが、ILCLのホームページは充実していて、一般向けの他に、子ども向けの「キッズページ」もあり、図書館の建物のことや資料検索の仕組みや検索手順がわかるようになっている。しかし、一般の公共図書館に比べると図書館機能が複雑で多岐にわたるため、仮に初めての利用者がホームページから自分の目指すサービスに行き着くのは難しい場合がありそうだ。それをサポートする「リサーチ・ナビ」という便利な機能があり、調べ方の案内をしてくれる。一般的な「レファレンス・サービス」についての説明の他、例えば海外の児童図書館や児童書専門機関の紹介もあって、うまく利用すると調べ物の幅がぐんと広がって便利だ。しかし、ILCLのホームページで「リサーチ・ナビ」にたどり着くには、「レファレンス・サービス」をクリックしてさらにその中の項目から入らなくてはならない。「リサーチ・ナビ」の存在を知らないと素通りしてしまいそうだ。できればトップページに置いて、目につきやすくすると利便性がさらに向上するのではないだろうか。

児童サービスの充実

国際子ども図書館の使命の一つは「子どもと本のふれあいの場としての役割」を果たすことである。データやアンケートからは、たくさん子どもたちが読書や調べ物のために来館し、その多くが「また来たい」と感じている嬉しい反応が伝わってくる。毎週土曜日に行われるおはなし会は、このところ新型コロナウイルス感染防止のために休会が続いているが、こちらも好評を得ている活動だ。また、中高生を対象にした見学・体験プログラムも人気で、中でも「調べもの体験プログラム」は、図書館資料の使いかたを実践で学べる好企画である。中高生に限らず小学生用のプログラムもあれば、調べ学習や自由研究の強い味方になるだろう。

ところで、ヤングアダルト文学（以下、YA 文学とする）を中心とした児童文学連続講座の企画に関わってこちらにお邪魔するようになって、ちょっと驚いたことがある。国会図書館の方針ではヤングアダルト向けの図書は、一般図書として永田町の国会図書館に収蔵されることがあるというのだ。確かにヤングアダルト向けの本は、一般書か児童書か分類の判断に迷う作品もあるが、書評などでは児童書として扱われていることが多いので、一考が必要と思われる。また、せっかく中高生向けの館内ツアーを準備しているからには、調べ物の本だけでなく、小説についてもヤングアダルト・コーナーを作るなどして、関心を引く工夫があってもいいかもしれない。

本を読まず、図書館を利用しない子どもや若者に図書館を知ってもらうには、ILCL 訪問体験はよいきっかけとなるだろう。できれば、一回だけの ILCL 訪問で終わるのではなく、続けて地元の図書館や学校図書館を利用するための自由研究アイデアの示唆など、教育関係者と ILCL の連携ができるとより効果的と言えそうだ。

児童文学連続講座とヤングアダルト文学

20 年の歴史の中で、2004（平成 16）年から毎年実施され好評を得ているのが児童文学連続講座である。しかし、昨年は新たな局面に直面することになった。新型コロナウイルスへの対応である。それまでは全国からの参加者が研修室に集まり、2 日間にわたって講座の聴講、グループ・ディスカッション、講師との質疑応答などを行っていた。感染のリスクを考えるとこの方式での開催は難しく、検討の結果、ウェビナーを使ったオンライン形式で開催することになった。これまで実施してきたグループ・ディスカッションなどはできなかったが、参加者からネットで講師への質問を送ってもらい、講師がオンライン画面で回答するという形で質疑応答も行うことができた。この形式は好評で、2021（令和 3）年度もオンライン開催となる。オンライン開催であれば、遠方からの参加者も移動の心配がなく、また人数も 100 名に制限することなく実施できるのだが、ディスカッションでの意見交換や休み時間の雑談を通しての情報交換など、対面ならではの交流ができないのは、ちょっと寂しい気がする。今後、コロナの危険が去った時には、開催方法を再検討する必要があるかもしれない。

2018 年度までの児童文学連続講座では、主に児童サービスの基礎となる絵本や小学生向けの児童文学についての講義を中心に行ってきたが、2019 年度からの 3 年間は、中高生を対象とした YA 文学に焦点をあてた講座を準備してきた。YA 文学は読者対象年齢のとらえ方に若干の幅はあるとしても、概ね 13 歳から 19 歳の若者、つまり中高生をターゲットにした作品である。

YA 文学に注目した一連の講座で、2019 年度の「絵本からヤングアダルト文学まで」では、児童文学全体の中における YA 文学の位置づけを知ってもらう入門的な講座を設け、2020 年度の講座「10 代に手渡す物語」では、YA 小説と YA サービス概説のほか、日本の YA 文学、英米の YA 文学、そしてライトノベルについてより具体的な作品について講師陣に語ってもらった。3 年目にあたる今年度の講座「今を生きるヤングアダルトへ」では、集大成的に、若者が本を読む意義、作家や翻訳家の立場から見た YA 文学、そして現代社会を生き抜く若者を扱った YA 文学、これらをテーマに講座を組み立て、今後の中高生の読書や図書館サービスに活かしてもらえればと願っている。

日本ではまだ認知度がさほど高くない YA 文学だが、その裾野は広く、苦悩する若者の内面や社会問題に踏み込んだ作品から軽い読み物やマンガまで、多様な作品が出版され、読み応えのある作品も多い。中

高生になると本から遠ざかる傾向が強くと、講座の参加者からも、「いかに若者を読書に誘うか悩んでいる」という声が多数聞かれた。自分が教えている大学でも本を読まない学生は多い。しかし授業で本の紹介をすると、興味をもって手に取る学生が少なくないことを考えると、ちょっと背中を押すことで本との新しい出会いが生まれるのだと思う。それを期待して様々な働きかけを続けたい。児童文学連続講座で YA 文学を通して全国の図書館関係者と繋がることができることは嬉しい限りである。

おわりに

図書館は急速に新しい方向に進んでいる。デジタル化の波が押し寄せていることもあるが、コロナ禍で生活環境が変わり、自宅から手軽に情報収集できる手段が求められるようになったことも関係しているかもしれない。その中で、ILCL の利用者は資料を利用する大人の利用者から、生のおはなし会を楽しむ子どもの利用者まで幅が広く、サービスにも工夫が必要だ。サービス向上のためには提供側と受け手側とのキャッチボールが不可欠で、そのためには、ILCL の存在をもっともっと多くの方々に知ってもらうことが大切だと思う。たとえば、ILCL に来られない学校への出張講義の充実や活動紹介の DVD 化と貸し出しなど、こちらからのさらなる働きかけも必要だろう。

20 歳になった ILCL は誕生期とは比べものにならないほど多様なサービスとを展開し、さらに成長発展しようとしている。この若々しいエネルギーが大いに発揮されることを心から祈っている。そして、その活動を支えるスタッフには心からの敬意を表したい。

(国際子ども図書館 客員調査員、元白百合女子大学教授)

国際子ども図書館の 20 年

① 児童書の資料・情報センターとしての蔵書構築

資料情報課書誌情報係

国際子ども図書館（以下「当館」という。）は、「おおむね十八歳以下の者が主たる利用者として想定される図書及びその他の図書館資料に関する図書館奉仕を国際的な連携の下に行う」（国立国会図書館法第 22 条）、我が国唯一の国立の児童書専門図書館であり、子どもの本に関わる資料・情報センターとしての役割を担っている。この役割を果たすため、2000（平成 12）年の第一期開館以来、国内外の児童書及び児童書関連資料の広範な収集・保存・提供に努めてきた。

開館に向けて

1997（平成 9）年、当館及び関西館の開館準備等のため、国立国会図書館において「21 世紀に向けた蔵書の緊急整備計画」を策定した。この計画では、「国際子ども図書館の所管資料は、国内・外国の児童書・児童書関連資料である」とし、児童書の範囲はヤングアダルトを含む成長期（18 歳までを想定）にある層を対象としたあらゆる形態・ジャンルの資料とした。また、それまで国立国会図書館の収集対象外だった外国の児童書を収集対象とし、開館に向けて大量の収集を行うこととした。

この方針に従い、国立国会図書館で受け入れた国内刊行児童図書約 13 万冊、児童雑誌約 800 タイトル及び紙芝居等の非図書を東京本館から移管し、外国刊行児童書約 3 万冊、内外の児童書関連書約 1 万冊を収集して、図書約 20 万冊、雑誌 1,600 タイトルをもって 2002（平成 14）年度の全面開館を迎えた。

従来、国立国会図書館では所蔵する資料の外装（カバー）を廃棄していたが、当館で所蔵する児童書は装丁を生かした原裝保存を行うこととした点も特徴的である。1997（平成 9）年受入分の途中から、取り外し可能な透明ブックカバーを装着することで、カバーを残した保存を実現している。

国内刊行児童書の充実

当館で収集する児童書は、絵本、児童文学、ノンフィクション等を内容とする狭義の児童書のほか、教科書・教師用指導書、学習参考書及び一部のヤングアダルト資料や漫画、紙芝居、カルタ、映像資料等、幅広いジャンルに及んでいる。これらの多くは国立国会図書館法に基づいた納本制度によって収集されている。ただし、納本制度施行（1948（昭和 23）年）以前に発行された児童書は所蔵していないものが多いため、雑誌等の欠号分も含め、寄贈や購入により収集の努力を続けている。

なお、教科書及び教師用指導書は、2002（平成 14）年度から収集を開始した。国立国会図書館では収蔵スペースの確保が難しく積極的には収集してこなかった資料群であるが、歴史教科書の記述問題で国政審議上の需要が高まったこと等を受け、文部科学省、教科書協会及び教科書出版社との協議を経て一括納入代行機関により納入されることとなった。

また、2015（平成 27）年のアーチ棟竣工による書庫能力の増大と障害者向け資料の利用提供環境の充実を受けて、それまで東京本館で所管していた児童向け障害者等用資料を移管した。2017（平成 29）

～2018（平成 30）年度には点字・大活字資料、2019（令和元）～2020（令和 2）年度には視覚障害者等用録音資料（DAISY）を移管し、提供を開始した。

外国刊行児童書の収集

開館以来、外国刊行児童書については、各国の児童文学史上主要な作品や作家の代表的な作品、権威ある児童書賞受賞作品、日本語の作品をオリジナルとする翻訳作品を積極的に収集している。欧米の児童書のみならず、児童書の流通基盤が脆弱で散逸しやすく、入手が困難なアジア・アフリカ地域の児童書の収集にも尽力してきた。職員による選書のほか、外部の有識者の協力を得た「海外の児童書に関する調査」、外部機関からの情報提供及び寄贈などにより、幅広く収集している。

「海外の児童書に関する調査」は、各言語や各国の児童書出版事情、児童文学史に詳しい有識者に、当館がそろえるべき基本的な児童書及び関連資料に係るブックリストの作成を依頼する事業であり、開館当時の 2000（平成 12）年度から続けている¹。これまでに調査を実施した国と言語は表 1 のとおりである。

表 1 ブックリスト作成実績（2000（平成 12）年度～2020（令和 2）年度）

年度	国・言語	年度	国・言語	年度	国・言語
2000 (H12)	英語（関連書）・ロシア語・ドイツ語・スペイン語	2007 (H19)	スペイン語圏ラテンアメリカ・イラン	2014 (H26)	ペルー
2001 (H13)	英米以外の英語圏・韓国語	2008 (H20)	タイ語・ヘブライ語	2015 (H27)	チェコ語
2002 (H14)	英語（英米児童文学）・中国語	2009 (H21)	トルコ語・ベトナム語	2016 (H28)	オーストラリア・ニュージーランド
2003 (H15)	フランス・イタリア・スウェーデン・北欧諸国（スウェーデン以外）	2010 (H22)	アイルランド	2017 (H29)	西アフリカ（フランス語公用語圏）
2004 (H16)	オランダ・ポーランド・旧ユーゴスラビア諸国	2011 (H23)	ラトヴィア・インドネシア	2018 (H30)	カナダ・ケベック（フランス語圏）
2005 (H17)	ベルギー（オランダ語）・ハンガリー・エジプト・レバノン	2012 (H24)	ウルドゥー語・英米	2019 (R1)	キューバ
2006 (H18)	ギリシャ・ヒンディー語・マラティー語・ベンガル語	2013 (H25)	モンゴル	2020 (R2)	ジョージア

外部機関から提供された情報に基づく収集については、日本語の作品をオリジナルとする翻訳作品について、継続的に実施している。一般社団法人日本国際児童図書評議会（JBBY）が調査した『海外で翻訳出版された日本の子どもの本 1998』の情報を引き継ぎ、2000（平成 12）年以降、一般社団法人日本書籍出版協会及び日本児童図書出版協会を通じて加盟する各出版社に、海外で刊行された翻訳児童書に係る出版情報の提供を依頼している。各出版社から翻訳書の寄贈を受ける場合も多く、収集の助けとなっている。

また、毎年イタリアで開催される世界的な児童書見本市「ボローニャ国際児童図書展」の事務局から、「ボローニャ・ラガッツイ賞」の応募作品の一部について 2004（平成 16）年度から寄贈を受けており、世界各国の新刊書を一括して入手できる貴重な取組となっている。

このほか、各国の大使館や国立図書館から児童書の寄贈を受けることもある。2013（平成 25）年度

¹ 平成 21 年以降に作成したブックリストについて、国際子ども図書館ホームページ「海外の児童書に関する調査」に掲載している。（<https://www.kodomo.go.jp/info/foreign/index.html>）。

にはトルコ大使館から、2014（平成26）年度にはラトビア大使館から、2015（平成27）年度にはフランス大使館から各国児童書の寄贈を受けた。各国国立図書館等との資料の交換による収集にも取り組んでおり、「出版物の国際交換に関する条約（昭和59年条約第6号）」に基づく国際交換のほか、2014（平成26）年度にはルーマニア国立図書館、2016（平成28）年度にはベトナム国立図書館と国立国会図書館との間で締結した協力協定の下で取り交わされた資料の交換に関する覚書に基づき、両国の児童書を収集した。

こうした取組の結果、2021（令和3）年3月末現在、約160の国・地域の児童書約11万冊を所蔵しており、国際的な児童書専門図書館としての役割を担うための蔵書構築を着実に進めている。

児童書関連資料の構築

児童書関連資料として、児童書・児童文学、児童文化、伝承文学、子どもの読書・児童図書館等に関する資料、調査研究に必要な基本的な参考図書等を収集対象としている。2000（平成12）年の第一期開館時から資料室で提供を開始し、2002（平成14）年の全面開館以降は第一・第二資料室、平成27年のリニューアル以降は児童書研究資料室での開架を中心として提供してきた。2021（令和3）年3月末現在、図書約4万冊、雑誌約600タイトルを所蔵し、児童文学に関する研究者のほか、学校図書館員等子どもの読書活動推進に携わる利用者の調査研究に資するものとなっている。

特色あるコレクション

当館は、国内外の児童文学史や絵本史を研究する上で貴重な資料を寄贈または購入によって収集してきた。これらの資料のうち、旧蔵者やシリーズ等でまとまった資料群として構築されたものは、コレクションとしてホームページや展示会を通じて広く一般に紹介している。2021（令和3）年3月末現在、当館が所蔵するコレクションは表2のとおりである。

表2 国際子ども図書館が所蔵するコレクション

コレクション名	内容
特別コレクション	
池田宣政コレクション	少年小説家・冒険小説家の池田宣政（南洋一郎）氏著作を中心としたコレクション。860冊。
イングラムコレクション	18～20世紀にわたる英米の絵本・児童書・教科書の包括的なコレクション。1,157冊。
プランゲ文庫児童書コレクション	米国メリーランド大学が所蔵するプランゲ文庫のうちの児童書約8,100冊のマイクロフィルム。平成26年3月から「国立国会図書館デジタルコレクション」で館内限定提供。
その他のコレクション	
講談社の絵本	大日本雄弁会講談社が1936年12月に創刊したシリーズ。
Bilderbuch für Kinder（『子どものための絵本』）	18～19世紀にドイツで出版された世界初の子どものための百科事典。
St. Nicholas（『セント・ニコラス』）	1873年創刊のアメリカの児童雑誌。
オピーコレクション	児童書研究の先駆者のオピー夫妻が収集した17～20世紀の児童書コレクション。約2万点の児童書のマイクロフィッシュ。

チェコの児童書コレクション	20 世紀前半の昔話や創作童話等 218 点と 20 世紀後半を中心とするチェコ研究者の千野栄一氏旧蔵資料 623 点。
ロシアの児童書コレクション	ロシア児童文学の翻訳・研究家の田中かな子氏旧蔵の主としてソ連時代の児童書約 3,700 点と 1920～1930 年代の絵本等

資料のデジタル化の推進

児童書は装丁が堅牢でないものも多く、子どもの利用による汚破損等により廃棄されやすい。このため、当館所蔵資料のデジタル化は、国内の希少な児童書を後世に伝えるうえで有効な手段である。

当館の資料デジタル化は、国立国会図書館において資料のデジタル化の作業手順等がまだ確立されていない段階から先駆的に取り組まれてきた。1997（平成 9）年度から開発に着手した「国際子ども図書館電子図書館システム」の枠組みの中で、デジタル化された児童書の画像の蓄積が進められ、1998（平成 10）年の時点で、1950（昭和 25）年以前に受け入れた児童書のうち著作権使用許諾を得たものについてデジタル化していた。2000（平成 12）年の第一期開館時には、デジタル化した画像のうち、著作権者の許諾を得たものについて館内の利用端末での閲覧サービスを開始し、2003（平成 15）年 4 月には、「児童書デジタルライブラリー」²としてインターネットを通じた一般への公開が実現した。

2009（平成 21）年から 2011（平成 23）年にかけて実施した国立国会図書館の大規模デジタル化事業では、当館の当時の蔵書の 2 割弱（児童書約 25 万冊のうち約 4 万冊、児童雑誌約 8 万冊のうち約 2 万冊）をデジタル化した。デジタル化した画像は、当館のほか、東京本館・関西館を含む館内の利用端末で利用可能となった。また、著作権保護期間満了もしくは文化庁長官裁定済み資料については、インターネット上で公開している。2014（平成 26）年には、図書館向けデジタル化資料送信サービスの開始により、絶版等の理由で入手が困難な資料について、事前に承認を受けた全国の公共図書館等の館内でも利用できるようになった。大規模デジタル化以降は、国立国会図書館のデジタル化事業の一環として資料のデジタル化に取り組んでおり、今後もより一層の進展が見込まれている。

今後に向けて

2015（平成 27）年度のアーチ棟書庫の竣工により、館全体で約 105 万冊の収蔵能力を持つこととなり、2000（平成 12）年の第一期開館時点で約 4 万冊だった図書は、2021（令和 3）年度 3 月時点で約 50 万冊（雑誌、非図書を含めると約 71 万点）にまで増加した。今後も児童書のナショナル・センターとして、子どもの読書活動推進と児童書研究に資する資料の収集に努めるとともに、デジタル化による利用と保存の両立や利便性の向上、情報発信による蔵書の活用促進により一層取り組んでまいりたい。

² 「児童書デジタルライブラリー」は、平成 23 年 2 月に国立国会図書館の「近代デジタルライブラリー」に統合され、平成 24 年 5 月からは「国立国会図書館デジタルコレクション」(<https://dl.ndl.go.jp/>)で提供している。

国際子ども図書館の 20 年

② 子どもと本をつなぐサービスのあゆみ

児童サービス課

国際子ども図書館は、開館当初から児童サービスに取り組んできたが、その成果や経験を自館だけのものとせず、広く日本の児童サービスの発展に活かすことが求められてきた。2000（平成 12）年の開館記念式典において、当時の皇后陛下が「直接子どもに奉仕するとともに、『子どもに奉仕する人々に奉仕する』という、この図書館に課せられた二重の役割」とのお言葉で表現されたとおりである。ここでは、開館から 20 年間の実践について振り返ってみたい。

1 「子どものへや」でのサービス

国立国会図書館にとって、国際子ども図書館の開館による子どもへの直接サービス開始は、画期的なことだった。2000（平成 12）年の第一期開館時は、3 階ホールのロフト状の空間に、子どもが自由に手に取って読める児童書 3,000 冊を開架し、「子どものへや」として閲覧サービスを開始した。国立の子どもの本の図書館の開館としてニュース性も高く、開館当初は、利用者が詰めかけ、入室まで待ってもらったことがしばしば発生した。3 階ホールには、子どもが電子図書館を気軽に楽しむための場所として、メディアふれあいコーナーも設置された。

2002（平成 14）年 5 月の全面開館時に、レンガ棟 1 階に「子どものへや」、「世界を知るへや」及び「おはなしのへや」を新設し、蔵書数も 7,000 冊となり、本格的な児童サービスを実施する環境が整った。おはなしのへやでは、職員により毎週土・日曜日に「子どものためのおはなし会」を定期的に開催した。1 日 2 回、対象年齢を定め（4 歳以上小学校 1 年生以下、小学校 2 年生以上）、子どもが年齢に合ったおはなしや絵本を楽しめるようプログラムを工夫した。このような直接サービスの経験は、その後、次のような様々な直接サービスへと広がった。4 歳未満の親子を対象とした「ちいさな子どものための絵本の時間」の開始、科学あそびをはじめとした夏休みのイベントや季節のおたのしみ会の実施、保育園、幼稚園、小学校を対象とした見学でのおはなし会や特別支援学校を対象とした見学の対応などである。

開館当初からこのようなサービスを実現できたのは、関係機関の協力を得て経験豊かな専門家から教えを請い、ともに児童サービスを実践していく中で技術だけではなく理念や理論をも習得することができた結果である。またそれらは、外部機関の研修や関係団体等の大会等への参加、館内勉強会や自己研鑽等によって培った経験と合わせて、次世代の職員へ継承され、無事開館 20 周年を迎えるに至った。

2 中高生向け「調べものの部屋」でのサービス

国際子ども図書館の児童サービスは 18 歳未満を対象としているが、小学生以下の子どもを対象とし

たサービスが中心になっていた。2016（平成 28）年 2 月、リニューアルを機に中高生向けの資料室「調べものの部屋」を開室し、同年 4 月から、中高生向け「調べもの体験プログラム」の実施を始めた。この 2 つのサービスの開始までの経緯や当初のコンセプトについては、『国際子ども図書館の窓』第 16 号（2016 年 9 月）で詳しく紹介している。

「調べものの部屋」では、中高生がレポート作成や調査に使うことのできる資料約 1 万冊を開架している。小学校高学年程度向けのものから一般書までを選書対象とし、テーマは多岐にわたっている。中高生の本格的な調べもののためにはこの蔵書数では不十分だが、公共図書館や専門図書館、大学図書館等、資料と情報の世界はまだまだ広く深い。学校図書館とともに、より広い世界への入口としての役割を担うため、図書館の仕組みを知ってもらうとともに、本が体現する知そのものへの関心を喚起する場所にしたいと考えている。そのため、選書の際は、目次や索引が使いやすいかどうか等、調べるために適しているかは重要なチェックポイントではあるものの、その他話題性があるものや担当者が関心をひかれたものも選んでいる。

2016（平成 28）年に開始した中高生向けサービスのもう一つの柱が、「調べもの体験プログラム」である。国際子ども図書館がある上野公園周辺には美術館や博物館等が多く、修学旅行や校外学習で多くの中高生が訪れるため、リニューアル前から施設見学の案内は実施していたが、調べものの部屋にある資料等を使って「図書館での調べもの」を体験してもらうため 6 つのコースを設定した。開始以降多少の変遷を伴ったが、現在提供しているのは、「調べもの対戦」、「調べものクイズ」、「館内探索スタンプラリー」、「クイズ出題対決」、「ストーリー創作」、「POP 広告作成」の各コースである。調べ学習や探究学習には、テーマ設定から始まりまとめや発表まで相応の時間がかかるが、1 時間程度の短時間で、「本を使って調べることの楽しさ」を体験してもらうのがこのプログラムのコンセプトである。そのため、クイズやチーム対抗戦などの形式をとっている。2020（令和 2）年度までの 4 年間で、延べ 111 校、1,601 名の参加があった。実施経験から担当職員も学び、改善を続けてきたが、2020（令和 2）年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施は 1 校のみにとどまった。

また、2017（平成 29）年度に「教科書において図書館へ！ 授業の外側にある数学のはなし」、2018（平成 30）年度に「図書館で！ ネットで！ 楽しい古典籍—おいしい江戸料理本の世界」と題した中高生向けの講演会を実施した。2020（令和 2）年度には、国際子ども図書館開館 20 周年記念として、中高生向けトークイベント「畠山重篤さんに聞いてみよう！ おいしいカキフライを食べるには」を開催した。

3 学校図書館に向けたサービス

国際子ども図書館では、学校図書館に対する支援の一環として、2002（平成 14）年度から「学校図書館セット貸出し」事業を行っている。テーマ、地域ごとに複数セットの貸出用コレクションを構築し、国内の学校図書館に一定期間貸し出すサービスとして始まった本事業は、国際理解をテーマとする「韓国セット（小学校高学年向、中学校向）」の 1 地域 2 種類からスタートした。その後、対象地域を再構成しながら、1 年間にほぼ 1 地域のペースで構築し続けた結果、開始から 10 周年を迎える 2011（平成 23）年度には、国際理解セットは全 9 地域 17 種類で世界をほぼ一周した。当初 10 年間のサービスについては、「10 周年を迎えた学校図書館セット貸出し」（『国際子ども図書館の窓』第 13 号（2013

年9月) pp.46-48) で詳しく解説している。以降の数年間、セット内容の定期的な見直しと更新を行いながら、国際子ども図書館リニューアルの準備に傾注した。その後、次なる「時代のニーズ」に応えるものとして、2019(令和元)年度から中学生が科学に関心を持つきっかけとなることを目指した「科学セット(中学校向)」の貸出しを、続いて2021(令和3)年度から社会的関心が高いバリアフリーをテーマに、特別支援学校(学級)でも通常学級でも利用可能な「バリアフリーセット(小学校向)」の貸出しを開始した。

学校図書館セット貸出しの20年間	
2002(平成14)年度	「韓国セット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始 ※2008年度提供終了(「東アジアセット」に統合)
2003(平成15)年度	「北欧セット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始
	「世界を知るセット(小学校低学年向)」提供開始
2004(平成16)年度	「カナダ・アメリカセット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始
2005(平成17)年度	「アジアセット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始 ※2008年度提供終了(「東アジアセット」に統合)
2006(平成18)年度	「世界を知るセット(小学校高学年向)」提供開始
2007(平成19)年度	「ヨーロッパセット(小学校低学年向、小学校高学年向)」提供開始
2008(平成20)年度	「東アジアセット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始
	「東南アジア・南アジアセット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始
2009(平成21)年度	「中東・アフリカセット(小学校高学年向)」提供開始
	活用事例の紹介
2010(平成22)年度	「中南米セット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始
2011(平成23)年度	「オセアニア・南極・北極セット(小学校高学年向、中学校向)」提供開始
	学校図書館セット貸出しによる東日本大震災復興支援(～2016年度)
	「読書郵便」開始
2012(平成24)年度	以降、毎年1セットずつ内容をリニューアル
2015(平成27)年度	国際子ども図書館リニューアル、「調べものの部屋」新規開室
2019(令和元)年度	「科学セット(中学校向)」提供開始
2021(令和3)年度	「バリアフリーセット(小学校向)」提供開始

4 子どもに向けた情報発信

開館当初の児童サービスは直接サービスが中心であったが、来館できない大多数の子どもが存在しているのは否めない事実である。開館10年を迎えた2010(平成22)年4月23日の子ども読書の日、図書館での調べ学習を本格的に始める小学校3年生くらいを主な対象とし、身近な学校図書館や地域の図書館を利用するきっかけとなるよう、来館しなくても使える「国立国会図書館キッズページ」を公開した。ここでは、読書や図書館に関する様々な情報を知ることができるコンテンツを提供しており、授業で活用したいなど反響も大きかった。また、2014(平成26)年に提供開始した「中高生のための

幕末・明治の日本の歴史事典」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校や自宅で過ごす時間の増加により、2020（令和2）年におけるアクセス数の増加が顕著であった。

国の政策として、教育の情報化や子どもの情報活用能力の育成が図られてきた中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、デジタル技術を活用した遠隔やオンライン環境での子どもの読書・学習支援の必要性が急激に高まり、図書館の役割が注目されている。国際子ども図書館も2020（令和2）年度から、今までのサービスの実績を生かした上で、中高生も視野に入れつつ、より多くの子どもたちが読書に親しみ、興味を持った知識や情報を得ることができるよう、より魅力あるデジタルコンテンツの提供を目指して検討を始めている。

国際子ども図書館の 20 年

③ 展示会のあゆみ

資料情報課展示係

国際子ども図書館では、本の魅力に触れ、本に親しむ契機となる場として、児童書の持つ魅力を広く一般に紹介することを目的に、国内外の児童書に関する企画展示会を開館時から継続的に開催している。開館から 20 年の間で、開催した展示会の総数は 72 回、来場者の総数は約 135 万人に及び、1 万 2 千点以上の作品を展示してきた（これまでに開催した展示会は以下の表のとおり）。

表 国際子ども図書館で開催した展示会

回	会期	展示会名
1	2000（平成 12）年 5 月 6 日～6 月 4 日	子どもの本・翻訳の歩み展
2	2000（平成 12）年 6 月 10 日～7 月 16 日	なつかしのえほん—昭和 20 年代～30 年代の子どもたちへ
3	2000（平成 12）年 7 月 21 日～9 月 24 日	アジアを知ろう—アジアの絵本と絵日記展
4	2000（平成 12）年 10 月 7 日～11 月 26 日	本に拍手を—アメリカ児童図書週間ポスター展
5	2000（平成 12）年 12 月 2 日 ～2001（平成 13）年 2 月 4 日	絵本が映し出すオーロラ—北欧の作家と絵本展
6	2001（平成 13）年 2 月 10 日～4 月 8 日	Hola amigos! やあ ともだち!—中南米の子どもの本展—
7	2001（平成 13）年 4 月 14 日～9 月 2 日	O CANADA—カナダの子ども・文化・自然—
8	2001（平成 13）年 9 月 8 日～12 月 22 日	本にえがかれた動物展本にえがかれた動物展
9	2002（平成 14）年 5 月 5 日～9 月 14 日	不思議の国の仲間たち—昔話から物語へ
10	2002（平成 14）年 9 月 28 日～12 月 1 日	子どもたちのまなざし—アボリジニの大地から
11	2002（平成 14）年 12 月 14 日 ～2003（平成 15）年 3 月 19 日	絵本に見る夢・ヨーロッパの国々から—Europe, a dream in pictures ?
12	2003（平成 15）年 2 月 1 日～4 月 13 日	占領期の子どもの本—メリーランド大学所蔵ブランゲ文庫児童書コレクションから
13	2003（平成 15）年 4 月 25 日～7 月 6 日	ゆめいろのパレット—野間国際絵本原画コンクール入賞作品アジア・アフリカ・ラテンアメリカから
14	2003（平成 15）年 7 月 19 日～11 月 9 日	未知の世界へ—児童文学にえがかれた冒険
15	2003（平成 15）年 11 月 15 日 ～2004（平成 16）年 1 月 11 日	国際アンデルセン賞受賞作家・画家展
16	2004（平成 16）年 1 月 17 日～2 月 22 日	みんなのちず—全国児童生徒地図優秀作品と子どもの地図の本展
17	2004（平成 16）年 3 月 7 日～3 月 30 日	いろのまほうつかい—エリックカール絵本の世界
18	2004（平成 16）年 4 月 17 日～9 月 5 日	蓮の花の知恵—インドの児童文学
19	2004（平成 16）年 9 月 18 日 ～2005（平成 17）年 4 月 10 日	本にえがかれた動物展 II—十二支を手がかりに
20	2005（平成 17）年 4 月 23 日～9 月 18 日	ロシア児童文学の世界—昔話から現代の作品まで

21	2005（平成17）年7月21日～9月4日	読書の楽しみをすべての子どもたちに 日本のバリアフリー図書の歩み
22	2005（平成17）年7月21日～24日	読書の楽しみをすべての子どもたちに 世界のバリアフリー絵本展
23	2005（平成17）年10月1日 ～2006（平成18）年1月15日	ゆめいろのパレット II—野間国際絵本原画コンクール入賞作品アジア・アフリカ・ラテンアメリカから
24	2006（平成18）年1月28日～7月2日	もじゃもじゃペーターとドイツの子どもの本
25	2006（平成18）年7月15日 ～2007（平成19）年1月28日	北欧からのおくりもの—子どもの本のあゆみ
26	2006（平成18）年9月26日～12月17日	旧帝国図書館建築100周年記念展示会
27	2007（平成19）年2月10日～9月9日	大空を見上げたら—太陽・月・星の本
28	2007（平成19）年9月22日 ～2008（平成20）年1月13日	ゆめいろのパレット III—野間国際絵本原画コンクール入賞作品アジア・アフリカ・ラテンアメリカから
29	2008（平成20）年1月26日～9月7日	チェコへの扉—子どもの本の世界
30	2008（平成20）年8月21日～9月21日	2006年度国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト受賞図書展
31	2008（平成20）年9月20日 ～2009（平成21）年2月15日	童画の世界—絵雑誌とその画家たち
32	2009（平成21）年3月14日～7月5日	ゆめいろのパレット IV—野間国際絵本原画コンクール入賞作品アジア・アフリカ・ラテンアメリカから
33	2009（平成21）年7月18日 ～2010（平成22）年2月7日	出発進行！「のりもの」本めぐりへ
34	2009（平成22）年8月22日～9月27日	世界をつなぐ子どもの本—2008年度国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト受賞図書展
35	2010（平成22）年2月20日～9月5日	日本発☆子どもの本、海を渡る
36	2010（平成22）年8月21日～9月12日	世界のバリアフリー絵本展—国際児童図書評議会2009年推薦図書展
37	2010（平成22）年9月18日 ～2011（平成23）年2月6日	絵本の黄金時代 1920～1930年代—子どもたちに託された伝言
38	2011（平成23）年2月19日 ～2015（平成27）年10月31日	日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み
39	2011（平成23）年8月6日～9月11日	世界をつなぐ子どもの本—2010年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト受賞図書展
40	2011（平成23）年10月5日～12月25日	ヴィクトリア朝の子どもの本：イングラムコレクションより
41	2011（平成23）年12月27日 ～2012（平成24）年1月29日	新春 龍づくし
42	2012（平成24）年2月21日～3月11日	子どもの健やかな成長のために—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）の紹介
43	2012（平成24）年7月31日～8月26日	世界のバリアフリー絵本展—国際児童図書評議会2011年推薦図書展
44	2012（平成24）年12月4日 ～2013（平成25）年2月3日	セント・ニコラス：世界の子どもたちが集った雑誌
45	2013（平成25）年2月5日～2月24日	子どもの健やかな成長のために2012—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）の紹介
46	2013（平成25）年5月9日～6月9日	絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの

47	2013（平成25）年8月22日～9月29日	世界をつなぐ子どもの本 —2012年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト受賞 図書展
48	2014（平成26）年1月28日～2月23日	子どもを健やかに育てる本 2013—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 （出版物）
49	2014（平成26）年4月22日～5月25日	絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの
50	2014（平成26）年7月29日～8月24日	世界のバリアフリー絵本展 2013—国際児童図書評議会 2013年推薦図書展
51	2015（平成27）年1月27日～2月22日	子どもを健やかに育てる本 2014—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 （出版物）
52	2015（平成27）年8月4日～8月23日	世界をつなぐ子どもの本 —2014年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書 展
53	2016（平成28）年3月22日～7月24日	現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀
54	2016（平成28）年8月16日～9月4日	世界のバリアフリー絵本展 2015—国際児童図書評議会 2015年推薦図書展
55	2016（平成28）年10月25日 ～12月25日	こんにちは！イタリア—子どもの本のファンタジスタたち
56	2017（平成29）年1月24日～2月19日	子どもを健やかに育てる本 2016—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 （出版物）
57	2017（平成29）年4月11日～5月31日	絵本で知る世界の国々—IFLA からのおくりもの
58	2017（平成29）年8月1日～8月20日	世界をつなぐ子どもの本—2016年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書展
59	2017（平成29）年11月1日～11月30日	日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで
60	2018（平成30）年1月23日～2月10日	子どもを健やかに育てる本 2017—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 （出版物）
61	2018（平成30）年3月6日～7月15日	オランダの金の筆と銀の筆—子どもの本の世界
62	2018（平成30）年8月7日～8月26日	世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書 2017
63	2018（平成30）年9月9日 ～2019（平成31）年1月20日	『赤い鳥』創刊100年—誌面を彩った作品と作家たち
64	2019（平成31）年1月29日～2月17日	子どもを健やかに育てる本 2018—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 （出版物）
65	2019（平成31）年3月5日 ～2019（令和元）年7月21日	詩と伝説の国—イランの子どもの本
66	2019（令和元）年8月6日～9月8日	世界をつなぐ子どもの本—2018年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書展
67	2019（令和元）年10月1日 ～2020（令和2）年1月19日	絵本に見るアートの100年—ダダからニュー・ペインティングまで
68	2020（令和2）年2月4日～2月28日	子どもを健やかに育てる本 2019—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 （出版物）
-	2020（令和2）年3月24日～6月28日	スポーツと子どもの本（中止）
69	2020（令和2）年7月28日～8月30日	世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書 2019
70	2020（令和2）年9月29日～12月27日	平成を彩った絵本作家たち
71	2021（令和3）年1月12日～2月28日	子どもを健やかに育てる本 2020—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財 （出版物）
72	2021（令和3）年3月9日～6月13日	スポーツと子どもの本

国際子ども図書館が2000（平成12）年5月5日に第一期開館した際には、国際子ども図書館開館記念として、「子どもの本・翻訳の歩み展」と題した展示会を社団法人日本国際児童図書評議会（JBBY）との共催により開催し、海外の作品の翻訳を通じて発展してきた近代日本児童文学の系譜を紹介した。これを皮切りに、豊富な所蔵資料を用いた様々な展示会を企画し、児童書を新しい視点から紹介するとともに、図書館利用者にとどまらない新たな利用者層の開拓を目指してきた。

「本のミュージアム」での展示会

現在、展示会はレンガ棟3階にある「本のミュージアム」で開催している。第一期開館当初は、レンガ棟の昭和期に増築された部分の3階（現在のホール）を展示スペース（「ミュージアム」）としていたが、2002（平成14）年5月の全面開館時に、帝国図書館時代に普通閲覧室として使用されていた同階の部屋を改修し、2つの大きな円柱の塔とそれを取り囲む展示ケースを有する「本のミュージアム」を展示専用スペースとして新設した。本のミュージアムの壁と天井には、100年以上前の、帝国図書館として創建された当時の姿を保存、復元した漆喰装飾を見ることができる。

国際子ども図書館の20年間の歩みの中で、節目には展示会を開催し、活動の一端を広く周知することに努めてきた。2002（平成14）年度には、全面開館を記念して、展示会「[不思議の国の仲間たちー昔話から物語へ](#)」を開催した。2010（平成22）年度には、開館10周年と国民読書年を記念して、展示会「[日本発☆子どもの本、海を渡る](#)」を開催し、海外の言語に翻訳された日本の児童書と日本語の原書などを通して日本の児童書の国際的な広がりを紹介した。

2015（平成27）年度には、新館（アーチ棟）の完成とそれに伴うサービスの拡充を受け、リニューアル記念展示会「[現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀](#)」を開催し、1960年代までに翻訳出版された作品を扱った開館記念展示会「[子どもの本・翻訳の歩み展](#)」の後続の企画展示という位置付けで、1970年代以降の翻訳児童文学を紹介した。2020（令和2年）年度は、開館20周年を記念して、展示会「[平成を彩った絵本作家たち](#)」を開催し、国際子ども図書館の歩みと共にあった平成の時代に活躍した日本の絵本作家に焦点を当て、その作品を通して平成を振り返る機会とした。また、展示会への理解を深めるため、児童文学作家や研究者など、多彩な専門家を招いた関連講演会をはじめとする関連イベントも積極的に開催し、効果的な広報を推進している。

展示会の会期中には、展示会の見どころを職員が紹介するギャラリートークも開催し、来場者に好評を得ている。また、2010（平成22）年度の展示会「[絵本の黄金時代 1920～1930年代ー子どもたちに託された伝言](#)」のように、関連行事として海外から研究者を招聘してシンポジウムを開催することもあった。

国際子ども図書館が所蔵する特色ある資料群、コレクションを紹介する展示会も数多く開催している。2005（平成17）年度に開催した、ロシア帝政時代及び革命後の絵本、ソ連時代の児童書をはじめとするロシア語の児童書コレクションを紹介した展示会「[ロシア児童文学の世界ー昔話から現代の作](#)



国際子ども図書館開館20周年記念展示会
「平成を彩った絵本作家たち」の会場の様子

品まで」などである。2011（平成 23）年度には、展示会「[ヴィクトリア朝の子どもの本：イングラムコレクションより](#)」を開催し、18 世紀から 20 世紀にかけてのイギリスの児童書を中心とする特別コレクション「イングラムコレクション」から、近代児童文学の黎明期にあたる 19 世紀の代表的な作品を中心に展示した。

国際子ども図書館が豊富に所蔵する外国の児童書を積極的に取り上げていることも、展示会の特徴である。2001（平成 13）年度の、日本と反対側にある中南米の児童書を紹介した「[Hola amigos! やあともだち！—中南米の子どもの本展—](#)」をはじめとして、2016（平成 28）年度に開催した展示会「[こんにちは！イタリア—子どもの本のファンタジスタたち](#)」ではイタリアならではの世界観を感じられる児童書を紹介し、2018（平成 30）年度の「[詩と伝説の国—イランの子どもの本](#)」ではイランの文化に深く根付いている詩や伝説を題材とした作品を紹介するなど、カナダ、インド、ドイツ、北欧、チェコ、オランダと、様々な国の児童書をテーマに展示会を開催し、世界中の児童書の魅力を伝えてきた。

関連機関との連携により開催した企画展示も多数ある。例えば、2002（平成 14）年度の展示会「[絵本に見る夢・ヨーロッパの国々から —Europe, a dream in pictures ?](#)」では、フランスのシャルル・ペロ—国際研究所の巡回展示資料を展示し、ヨーロッパの国々の最新の絵本の潮流を紹介した。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターとの共催で開催した展示会「ゆめいろのパレット—野間国際絵本原画コンクール入賞作品アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」は、野間国際絵本原画コンクール入賞作とアジア、アフリカ、ラテンアメリカの絵本を紹介する展示会で、[2003（平成 15）年度](#)、[2005（平成 17）年度](#)、[2007（平成 19）年度](#)、[2008（平成 20）年度](#)と計 4 回にわたって開催した。2017（平成 29）年度には、展示会「[日本の絵本の歩み—絵巻から現代の絵本まで](#)」をちひろ美術館（公益財団法人いわさきちひろ記念事業団）との共催で開催し、日本の絵本の源流とされる絵巻から現代の絵本まで、日本の絵本の歩みを紹介した。

関係機関が選定する児童書を借用して紹介する展示会も継続して開催してきた。2005（平成 17）年度に初めて開催し、2010（平成 22）年度以降、現在まで隔年で開催している展示会「世界のバリアフリー絵本展」（のちに「世界のバリアフリー児童図書展」）は、国際児童図書評議会（IBBY）が 2 年に一度推薦する、点字付きの絵本、布絵本、障害のある子どもに読みやすい本、障害を理解するための本などを紹介する展示会である。また、国際アンデルセン賞受賞者の作品や IBBY オナーリスト（推薦図書リスト）の選出作品等を紹介する展示会を 2008（平成 20）年度に初めて開催し、2009（平成 21）年度以降、現在まで「世界をつなぐ子どもの本」と題して隔年で開催している。ほかにも、子どもたちの健やかな育ちに役立てることを目的として厚生労働省社会保障審議会が推薦した絵本や児童書を紹介する展示会「子どもの健やかな成長のために」（のちに「子どもを健やかに育てる本」）は、2011（平成 23）年度以降、現在までほぼ毎年、厚生労働省との共催により開催している。

児童書ギャラリーの開室

2015（平成 27）年度には、レンガ棟 2 階に常設の展示室「児童書ギャラリー」を開室した。児童書ギャラリーは、帝国図書館時代は特別閲覧室として利用されていた部屋で、書架以外は帝国図書館時代の状態を復元しており、漆喰で仕上げられた 4 本の柱や本のエレベーターで帝国図書館時代の面影を感じることができる閲覧室である。

2010（平成22）年度から2015（平成27）年度の約4年半にわたって開催した、明治から現代までの日本の子どもの文学の歴史をたどる展示会「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」を再構成し、2014（平成26）年度には、電子展示会として公開した。さらにこの展示会を発展させ、児童文学史、絵本史それぞれについて、明治から現代までの各時代の特色や代表的な約1,500冊の作品を、手に取れる形で展示しているのがこの児童書ギャラリーである。昔読んだ絵本や児童書を、懐かしく思い出したり、子どもと一緒に楽しんだりすることができるのではないだろうか。

電子展示会

国際子ども図書館は、開館当初からデジタル・ミュージアム、電子展示会を重要な機能として、館内で開催する展示会のほか、マルチメディア・コンテンツの作成、公開にも取り組んできた。

その一つが「絵本ギャラリー」である。「絵本ギャラリー」は、絵本というメディアが国や文化を越えて互いに影響し合いながら発展した歩みを、絵本の萌芽がみられる18世紀から黄金期とされる1930年代まで、国内外の貴重な絵本のデジタル画像でたどる電子展示会である。1999（平成11）年度、専門家の企画・監修のもと編集加工し、解説を付した展示プログラム「絵本は舞台」を作成した。このプログラムでは、歌や物語の朗読も聴くことができ、2000（平成12）年の国際子ども図書館第一期開館と同時に館内の端末で視聴できるようにした。その後も、絵雑誌『コドモノクニ』を取り上げた展示プログラム「コドモノクニ」を2002（平成14）年度に、19世紀末から20世紀初頭にかけてのヨーロッパの絵本を取り上げた「ユーゲントシュティルと絵本画家たち」を2005（平成17）年度に、江戸時代に作られた絵本等を紹介する「江戸絵本とジャポニズム」、ヨーロッパの挿絵本の時代を取り上げた「子どもの本 イメージの伝承」を2006（平成18）年度に公開するなど、数々のコンテンツを構築した。これらのコンテンツは、現在、児童書ギャラリーで公開、提供しているほか、一部はインターネットを通じて視聴できる。

本のミュージアムで開催した企画展示を基にした電子展示会の作成にも取り組んできた。これまでに、先述の展示会「[日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み](#)」のほか、「[日本発☆子どもの本、海を渡る](#)」、「[ヴィクトリア朝の子どもの本：イングラムコレクションより](#)」について、その内容を発展させた電子展示会を作成し、公開している。近年は、当時の技術で作成され最新のウェブアクセシビリティの達成基準を満たしていないコンテンツについて、閲覧環境や年齢的、身体的な条件に関わらずアクセスし、利用できるよう、順次改修も施している。

以上が20年の国際子ども図書館の展示会のあゆみであるが、国際子ども図書館は、児童書を展示する場としてだけでなく、上野地区や周辺の文化機関と連携しながら、児童書とともに文化を楽しむ場としても機能している。特にレンガ棟の建物は東京都選定の歴史的建造物に指定され、建物の見学を目的とする利用者も訪れる。国際子ども図書館の建築や歴史にも注目し、児童書のみならず、図書館そのものへの関心に結び付けることも目指して、今後も展示会をお届けしていきたい。

【特集 国際子ども図書館開館 20 周年】

開館 20 周年記念催物

国際子ども図書館が 2020（令和 2）年度に開館 20 周年を記念して行った催物を、実施日の順に次のとおり紹介する。なお、5 月 5 日に上野の森親子ブックフェスタ 2020 の一環として、国際子ども図書館開館 20 周年記念講演会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

開館 20 周年記念メッセージの公開

6 月 11 日、国際子ども図書館開館 20 周年を記念する取組の一環として、子どもの本と読書に関わる国内外の関係者から寄せられた記念メッセージを、国際子ども図書館ホームページ（<https://www.kodomo.go.jp/about/outline/anv20th.html>）で公開するとともに、翌年 3 月末までの間、レンガ棟 3 階ホールでパネル展示を行った。

次の方々からメッセージをいただいた（敬称略。肩書は当時のもの）。

海外（アルファベット順）

- ジョ・ヨンジュ（Cho YoungJoo） 韓国国立子ども青少年図書館 館長
- Sybille A. Jagusch 米国議会図書館 児童書センター長
- Christiane Raabe ミュンヘン国際児童図書館 館長
- 王 志庚（Wang Zhigeng） 中国国家図書館少年児童図書館 館長
- 張 明舟（Zhang Mingzhou） 国際児童図書評議会（IBBY）会長

国内（五十音順）

- 安藤 忠雄 建築家
- 小田 光宏 公益社団法人 日本図書館協会 理事長
- 河村 建夫 子どもの未来を考える議員連盟 会長
- さくま ゆみこ 一般社団法人 日本国際児童図書評議会（JBBY）会長
- 設楽 敬一 公益社団法人 全国学校図書館協議会 理事長
- 白井 哲 特定非営利活動法人 ブックスタート 代表
- 鈴木 みゆき 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 理事長
- 竹下 晴信 日本児童図書出版協会 会長
- 野間 省伸 公益社団法人 読書推進運動協議会 会長
- 張替 恵子 公益財団法人 東京子ども図書館 理事長
- 肥田 美代子 公益財団法人 文字・活字文化推進機構 理事長
- 宮川 健郎 一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 理事長



ホールに展示されたメッセージ

（企画協力課）

国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」

9月29日から12月27日までの74日間、レンガ棟3階本のミュージアムで、国際子ども図書館の開館20周年記念事業の一環として展示会「平成を彩った絵本作家たち」を開催した。全体で約200点の資料を展示し、平成に活躍した日本の絵本作家35名を、それぞれの作家が生み出した平成の絵本とともに紹介し、個性豊かな数々の絵本から、平成という時代を振り返った。また、4つの特別コーナーを設け、①昭和に刊行され、平成でも親しまれた絵本、②乳幼児向けの絵本、③他国で外国語版が出版された後、国内で日本語版が出版された逆輸入型絵本、④東日本大震災をはじめとする平成の災害を扱った絵本を紹介した。

本展示では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来会期中に定期的に開催していたギャラリートークに替え、出展作家紹介動画を常時上映した。会期中の入場者数は14,597名であった。

(資料情報課)



国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会関連講演会「絵本への期待—平成の絵本作家と編集者、そして読者—」

11月29日、国際子ども図書館開館20周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」関連イベントとして、京都女子大学発達教育学部准教授の今田由香氏を講師に招き、講演会「絵本への期待—平成の絵本作家と編集者、そして読者—」を開催した。平成の時代は、作品表現に磨きをかけた絵本作家たちが個性を發揮した時代であり、多彩な表現の絵本が誕生した。講師は、そうした絵本を取り巻く人々



講演会の様子

や、絵本を生み出すきっかけを作った編集者に焦点を当て、絵本への期待が生まれた背景を考察し、その期待の下で多彩な絵本がどのように作られ、読者に手渡されてきたかを解説した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館のほか、オンラインでも参加可能とし、参加者は68名（うちオンライン参加40名）であった。

(資料情報課)

国際子ども図書館開館 20 周年記念 中高生向けトークイベント

12月6日、『森は海の恋人』（北斗出版、1994）や『フェルムはまほうつかい』（小学館、2018）等、児童書を含む多数の著書を執筆し、NPO法人「森は海の恋人」代表で京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授でもある畠山重篤氏を講師に招き、中高生向けトークイベントを開催した。「畠山重篤さんに聞いてみよう！おいしいカキフライを食べるには」と題した講演の後、参加者からの質疑等を交えたフリートークの時間を設けた。会場には講師からお借りした大漁旗や、山での植樹や子どもたちの海での体験学習の様子など、「森は海の恋人」の活動等を撮影した写真を展示した。

講演ではまず、気仙沼でカキの養殖をしている講師が、カキは栄養豊富で日本に限らず食されていること、中でもアメリカ人はカキが好きであり、それにはどのような歴史的経緯があるかを紹介した。その後、山での植樹を行っている理由として、カキの餌になるプランクトンを増やすには、水中に鉄を含む養分が必須で、それにはカキが育つ汽水域上流の森林が生み出す腐葉土が重要であることなどを説明した。続いて、梓の木が果たしてきた役割と梓の木の持つ意味や、「森は海の恋人」という名称が **The sea is longing for the forest.** と英訳された経緯などに話が広がった。



会場の様子

フリートークでは、鉄の性質についての質問があり、回答と共に、気仙沼の海は鉄が豊富で、東日本大震災からの復活が早かったのもそのおかげだという話があった。

更に、カキの養殖や、会場に飾られた「森は海の恋人」の活動の写真について、質疑応答が行われた。

小学校高学年から高校生まで 8 名の参加があり、イベント終了後には、調べものの部屋で行っていた関連展示を楽しむ参加者の姿が見られた。

(児童サービス課)

開館 20 周年記念コンテンツ「SDGs と子どもの本」

2021 (令和 3) 年 3 月 23 日、開館 20 周年記念オンラインコンテンツ「SDGs と子どもの本—いま、図書館にできること」を公開した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施を見送ることとした国際シンポジウムの企画をもとに作成したものである。

コンテンツは、主に 3 タイトル (4 本) の動画で構成した。

タイトル	出演者 (敬称略)	時間
対談「SDGs と子どもの本—いま、図書館にできること」第 1 部	根本かおる (国連広報センター所長) 堀 純子 (国際子ども図書館長)	約 16 分
対談「SDGs と子どもの本—いま、図書館にできること」第 2 部	根本かおる (国連広報センター所長) 堀 純子 (国際子ども図書館長)	約 17 分
インタビュー「『どーしたどーした』—子どもの本にできること」	天童荒太 (作家)	約 23 分
インタビュー「“Thank you, Omu!”—図書館にできること」	オーゲ・モーラ (Oge Mora) (絵本作家)	約 28 分

根本国連広報センター所長と堀国際子ども図書館長による対談 (第 1 部・第 2 部) では、SDGs をめぐる状況のほか、SDGs の達成に子どもの本が果たす役割や、図書館や司書にできることについて語られた。

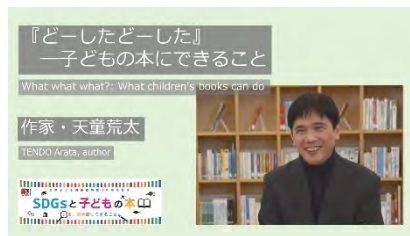
国際連合の組織 SDG Book Club による子ども向けブックリストに作品が選ばれた作家・天童荒太氏やアメリカの絵本作家オーゲ・モーラ (Oge Mora) 氏へのインタビューでは、選出作品や SDGs に対する両氏の思いが語られた。

これらの動画は、特設ページを設けて公開された（日本語：<https://www.kodomo.go.jp/anv20th/index.html>、英語：<https://www.kodomo.go.jp/anv20th/e/index.html>）。

同ページでは、SDG Book Club のブックリストを取り上げた「子どもと本のニュース」各記事も紹介している。特設ページは、SDGs の目標達成時期（2030 年）に合わせ、内容を拡充しながら令和 12 年末まで公開する予定である。



作成した動画の導入画面



(企画協力課)

活動報告

(令和2年4月～令和3年3月)

1 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月5日に来館サービスを全面休止としたが、3月30日、4月15日及び5月20日と休止期間を順次延長し、最終的には6月10日まで延長した。6月11日に児童書研究資料室のみサービスを再開、7月1日から全面的にサービスを再開し、整理券配布による入館制限を行うこととした。また、本のミュージアムにおける展示は、3月24日から6月28日まで開催する予定だった展示会を中止し、7月28日に新たな展示会によって再開した。エントランスでの検温の実施、資料室入口等へのアルコール消毒液の設置、資料室等の座席の削減、カウンターへの飛沫防止ビニールの設置、机や端末の定期的な清拭等の安全衛生対策を実施した。

なお、子どものためのおはなし会、ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会、ガイドツアー及び一般向け団体見学は引き続き休止したほか、一部の研修・イベントを中止とした。

2 児童書専門図書館としての活動

国際子ども図書館は、児童書の専門図書館として国内外の児童書及び関連資料を広範に収集・保存し、利用に供している。また、「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画 2015 (2019 改訂版)」に基づき、子どもの読書に関する情報発信、人材育成及びネットワーク構築、所蔵資料等を活用した情報提供等を行った。

2.1 資料・情報センターとしての機能

(1) 蔵書構築

○資料の収集

国内刊行児童書を納本制度により収集したほか、未収の国内刊行児童書（山内秋生『螢のお宮』等）、国内外の児童書関連資料、児童サービス用資料、学校図書館セット貸出用資料、主要児童雑誌の欠号等を収集した。

外国刊行児童書については、*Robert Merry's Museum* (S.G. Goodrich 刊) などを含む欧米や中国、韓国等の資料のほか、令和元年度に作成した選書用ブックリストに基づき、キューバの児童書を重点的に収集した。また、令和2年度はジョージアの児童書・関連書について児島康宏氏（ジョージア語・ジョージア文学研究者）に調査及び選書用ブックリストの作成を依頼した。調査報告とブックリストは国際子ども図書館ホームページで公開している (<https://www.kodomo.go.jp/info/foreign/index.html>)。また、ボローニャ国際児童図書展事務局から2020年ボローニャ国際児童図書賞応募作品189冊の寄贈を受けた。

令和2年度の蔵書増加数については、日本語の図書が8,534点、外国語の図書が3,919点、国内雑誌が36タイトル、非図書資料が1,530点であった。

なお、資料の破損・劣化対策として、年間160冊を補修した。

○資料のデジタル化

児童書については、1968年以前に刊行された国内刊行図書及び1970年以前に刊行された国内雑誌のデジタル化がおおむね終了している。令和2年度は、5年前に国際子ども図書館に移管された1968年以前刊行の学習参考書類約2,400冊をデジタル化した。

○児童向け視覚障害者等用資料の配置

国立国会図書館東京本館で提供していた点字・大活字資料のうち児童用資料に該当するものについては、平

成 30 年 10 月までに国際子ども図書館への移送が完了している。児童用視覚障害者等用録音資料・電子資料（マルチメディア DAISY 等）約 360 タイトル（約 380 点）について、令和元年度に東京本館からの移管手続きを開始し、令和 2 年 6 月に移送が完了した。これにより、国立国会図書館で所蔵する全ての児童向け視覚障害者等用資料を国際子ども図書館で提供することとなった。

(2) 情報サービス

○ホームページコンテンツのウェブアクセシビリティ対応

国際子ども図書館ホームページ上で提供している電子展示会「絵本ギャラリー」のうち「絵本は舞台」の日本語版・英語版について、国立国会図書館ウェブアクセシビリティ方針に基づいた改修を行い、令和 3 年 3 月に公開した。

※<https://www.kodomo.go.jp/gallery/asstage/index.html>

○国立国会図書館サーチにおける児童書総合目録の提供

国立国会図書館サーチを通じ、国立国会図書館（国際子ども図書館を含む。）、大阪府立中央図書館国際児童文学館、神奈川近代文学館、三康文化研究所附属三康図書館、日本近代文学館、東京都立多摩図書館、梅花女子大学図書館、白百合女子大学図書館・白百合女子大学児童文化研究センターが所蔵する児童書・関連資料の所蔵情報を検索できる児童書総合目録を提供している（令和 3 年 3 月末現在、計 732,440 件）。令和 2 年度は、東京都立多摩図書館のデータを更新した。

※<https://iss.ndl.go.jp/>

○国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（略称：国立国会図書館オンライン）への目録データ追加等

国際子ども図書館が整理したアジア諸言語の新規受入児童書資料の目録データ 914 件（韓国語 139 件、中国語 544 件、アラビア語 72 件、トルコ語 67 件、ベトナム語 50 件、チベット語 22 件、ジョージア語 13 件、インドネシア語 3 件、ペルシャ語 3 件、モンゴル語 1 件）を追加した。また、児童書専門付加情報として、日本児童図書出版協会から提供された『児童図書総目録』の内容解説データ 4,935 件を投入した。

※<https://ndlonline.ndl.go.jp/>

○リサーチ・ナビにおける「調べ案内」新規作成・更新

国際子ども図書館が所蔵する資料に関する「調べ案内」について、コンテンツの新規作成を 1 件、更新を 15 件行った。

※<https://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

○レファレンス協同データベースへの事例提供

国際子ども図書館が回答したレファレンス事例 39 件を追加した。令和 3 年 3 月末現在、計 728 件を提供している。

※<https://crd.ndl.go.jp/reference/>

○外国語に翻訳刊行された日本の児童書情報

リサーチ・ナビでの日本の児童書の海外における翻訳出版情報のデータベースの提供を令和 2 年 12 月 22 日をもって終了し、検索機能を国立国会図書館オンラインに一本化した。令和 2 年度は 248 件のデータを追加し、提供終了時点の収録データは 5,233 件であった。

○「国際子ども図書館の蔵書からみる国内の児童図書の出版状況」の公開

国際子ども図書館の蔵書のうち、日本国内で、2018 年に出版された児童図書を国立国会図書館分類表に基づいて分野別に集計した結果（2020 年 8 月 1 日現在）を国際子ども図書館ホームページで公開した。

※<https://www.kodomo.go.jp/info/publication/index.html>

(3) 利用者サービス

○来館利用サービス（18歳未満を対象とした来館利用サービスは3.1を参照）

児童書研究資料室では、約4万冊の児童書及び児童文学に関する参考図書・研究書等を開架している。また、利用者用端末を配備し、各端末から資料検索、書庫資料の閲覧申込み・複写申込書の作成のほか、デジタル化資料等電子情報の閲覧が可能である。令和2年度の児童書研究資料室の利用者数は5,622名、閲覧点数は15,201点、複写申込は3,743件であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月5日から休室していたが、6月11日から児童書研究資料室のサービスを再開した。

○遠隔サービス

国際子ども図書館所蔵資料の遠隔複写、図書館間貸出し及び蔵書に関する問合せに回答するレファレンスサービスを行っている。レファレンスの回答事例の一部はレファレンス協同データベースで紹介している。令和2年度の遠隔複写申込みは1,619件、図書館間貸出数は184点、文書によるレファレンス回答処理は205件、電話によるレファレンス回答処理は1,523件である。

また、国際図書館連盟（IFLA）の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」から寄贈された世界43か国・地域の絵本365冊及び付属資料を、展示会セット「絵本で知る世界の国々—IFLAからのおくりもの」として、国内及びアジア・オセアニア地域の図書館等に貸し出している。令和2年度は国内3機関に貸し出した。なお、うち1機関は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、貸出し後に展示会が中止となった。

(4) 国会サービス及び行政・司法の各部門に対するサービス

○国会サービス

主に調査及び立法考査局を窓口として、資料の閲覧・貸出し・複写・レファレンス等のサービスを行っている。令和2年度は国会サービスのため所蔵資料149点を出納した。このほか62点の貸出しを行った。

○行政・司法の各部門に対するサービス

国際子ども図書館では東京本館・関西館と同様に、各府省庁及び最高裁判所に設置されている支部図書館27館（6分館を含めて33館）に対して、資料の貸出し等を行っている。令和2年度の貸出数は19点である。

2.2 子どもの読書活動推進支援

令和3年3月30日に「国立国会図書館国際子ども図書館 子どもの読書活動推進支援計画2015（2019改訂）」及び「国際子ども図書館第2次基本計画」の後継計画として「国立国会図書館国際子ども図書館基本計画2021-2025」を策定した。（[p.8「国立国会図書館国際子ども図書館基本計画2021-2025」](#)参照）

(1) 子どもの読書に関する情報発信

○「子どもと本に関するニュース」

国際子ども図書館ホームページの「子どもと本に関するニュース」で、国内外の主な児童文学賞、子どもの読書と図書館に関するニュース等を紹介している。令和2年度は国内88件、国外59件、計147件の情報を掲載した。

※<https://www.kodomo.go.jp/info/index.html>



(2) 人材育成支援

① 国際子ども図書館が行った研修

○令和2年度図書館情報学実習生の受入れ

関西館図書館協力課が公募により選考した実習生計2名を9月3日から10日まで受け入れ、カウンター業務、選書、装備・排架、レファレンスサービス等の実習を行った。

○児童文学連続講座

11月9日及び10日に児童サービスに従事する図書館員等を対象に、児童文学に関する知識の醸成に資することを目的として児童文学連続講座「10代に手渡す物語—ヤングアダルト文学総論」をオンライン形式で実施し、222名が受講した。講義の演題及び講師は次のとおりである（敬称略、肩書は実施当時のもの）。

●21世紀の英米ヤングアダルト文学—物語がもつ力と危険性

水間 千恵（川口短期大学教授）

●ヤングアダルト書籍としてのライトノベル

大橋 崇行（東海学園大学准教授）

●現代日本児童文学と「ヤングアダルト文学」

奥山 恵（児童書専門店経営、白百合女子大学非常勤講師）

●英語圏のヤングアダルト文学と図書館活動

白井 澄子（白百合女子大学人間総合学部教授、国立国会図書館客員調査員）

●国際子ども図書館の中高生向けサービス

檜木 恵美子（国際子ども図書館児童サービス課課長補佐）

内容	時間
図書館の体験説明・見学	40分
調べもの対戦! コースのプロセス (見学込み90分の例)	
ルールの特徴と対立の理由	10分
1. OPAの使い方	
2. 検索結果について	
3. OPAでの検索キーワードの考え方	
4. 目次・索引の使い方	
【第1期】 出典・解題・解題（超格的・解説4分）	35分
【第2期】 出典・解題・解題（同上）	
【第3期】 出典・解題・解題（同上）	
アンケート	4分

※<https://www.kodomo.go.jp/about/publications/outline/r2.html>

○児童サービス研究交流会

令和3年3月5日から4月30日まで「ウィズコロナ時代の児童サービス」をテーマに、事前に録画した講演及び事例報告動画を配信する形式で実施し、1,139名が視聴した。内容は次のとおりである（敬称略、肩書は実施当時のもの）。

●講演1「児童サービスの今とこれから—コロナ禍での学びと未来」

汐崎 順子（慶應義塾大学非常勤講師）

●講演2「ウィズコロナの経験を活かす—これからの学校図書館について考えるために」

庭井 史絵（青山学院大学准教授）

●事例報告1「「としょ丸チャンネル」ができるまで」

岡田 雅彦（さいたま市立中央図書館資料サービス課課長補佐兼係長）

●事例報告2「逆境をチャンスに—公立小学校図書館でも出来ること」

横山 寿美代（杉並区立小学校司書）

●事例報告3「国際子ども図書館の取組」

檜木 恵美子（国際子ども図書館児童サービス課課長補佐）



講義（配信）の様子

※<https://www.kodomo.go.jp/study/forum2/r2.html>

○講師派遣

令和2年度に、公共図書館、図書館関係団体等の依頼により、2件の研修会等の講師を2名の職員が担当した。いずれもオンラインにより対応した。

派遣先：岐阜県図書館、第106回全国図書館大会和歌山大会（オンライン大会）

② 他機関との連携で行った研修等

○国際子ども図書館特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」

10月17日に伊藤忠記念財団との共催で開催を予定していた特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」

は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

○児童図書館員養成専門講座

日本図書館協会との共催により、公共図書館などの専門職員を対象とする第40回児童図書館員養成専門講座の一部科目の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。

(3) 学校図書館支援

○学校図書館セット貸出し

外国語の図書を含む児童書等約40冊を1セットとし、全国の学校図書館へ貸し出している。国際子ども図書館ホームページに、「国際理解」17種類、「科学」1種類の各セットを構成する資料のリストと資料紹介のほか、セットを使った学校図書館活動や学習・読書活動の事例を掲載している。令和2年度は170校に計7,095点の資料を貸し出した。子どもたちが次の利用校に推薦する本を紹介する読書郵便は50校に送付した。

※<https://www.kodomo.go.jp/promote/activity/rent/index.html>

2.3 国際的な交流活動

○IFLA 年次大会

ダブリン（アイルランド）で開催される予定であった世界図書館・情報会議（国際図書館連盟（IFLA）年次大会）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響のためオンラインによる開催となった。児童・ヤングアダルト図書館分科会のミーティングは8月14日及び15日にオンラインで開催され、常任委員である国立国会図書館職員が参加した。また、3月19日には児童・ヤングアダルト図書館分科会のミッドイヤー・ミーティングがオンラインで開催され、常任委員が参加したほか、複数の国際子ども図書館職員が公開セミナーを聴講した。

○IBBY 世界大会

9月5日から7日まで、モスクワ（ロシア）で開催される予定であった第37回国際児童図書評議会（IBBY）世界大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響のため2021年に延期となった。

3. 子どもと本のふれあいの場としての活動

子どもたちが図書館や読書に親しむきっかけとなるよう、国内外の児童書を提供するとともに、各種イベントや見学、情報提供等を行った。

3.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス

子どものへや・世界を知るへやでは、主に小学生以下を対象とする絵本、読み物、知識の本など約1万2千冊を開架し、年齢に応じた本の紹介等を行っている。

中高生向けの調べものの部屋では、各種事典や調べもの体験プログラムで利用する資料等を含め、調査やレポート作成に役立つ本を約1万冊開架している。

両室とも、7月1日のサービスの全面再開に当たっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、座席数を減らす等して席の間隔を空けた。また、子どものへや・世界を知るへやでは、土・日曜日を中心に、室内の人数が上限を超えた場合に、新たな入室を制限する措置を講じた。

○子どものためのおはなし会

毎週土曜日の午後2時（4歳～小学1年生）及び午後3時（小学2年生以上）から、ストーリーテリング

と絵本の読み聞かせ等を実施していた（夏休み期間を除く）が、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を休止した。

○ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会

6か月以上4歳未満の子どもと保護者を対象として毎月第2水曜日に実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を休止した。

○子どものためのおたのしみ会

通常のおはなし会の特別版として例年5月5日に実施していた「こどもの日おたのしみ会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため休館中であったことから、開催しなかった。11月15日には、恩賜上野動物園の協力により「秋のおたのしみ会」を実施し、子どもとその保護者58名が参加した。「秋のおたのしみ会」は、テーマを「カメ」とし、国際子ども図書館児童サービス課職員がカメを題材としたストーリーテリングと絵本の読み聞かせを行った後、上野動物園の飼育員がカメについてパワーポイントを使って説明した。また、カメのエサ、卵や甲羅の骨格標本や生きたカメを展示した。実施に当たっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、例年より広い会場で換気に留意し、手指の消毒等を徹底した。



秋のおたのしみ会

○夏休み読書キャンペーン

夏休みに子どもが様々な本に出会うための企画として、7月17日から9月6日までの期間に本を読んで問題に答えるクイズを子どものへやで実施し、計560名の子どもが参加した。クイズの問題は、初級編・中級編・上級編の3種類を用意した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、子どものへやの入室者数を制限している中での実施であったため、例年より問題数を減らし、各級とも短時間で読める本を選んだ。また、ホームページにも問題と解答を掲載し、来館できない子どもも近所の図書館の本を使ってクイズに挑戦できるようにする等の工夫を行った。

○夏休み親子図書館見学ツアー

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

○夏休み小学生向けおはなし会等

夏休み親子図書館見学ツアー終了後に、おはなし会やブックトークを実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

○幼稚園・保育園・小学校・特別支援学校向けの見学

幼稚園・保育園、小学校、特別支援学校向けに、それぞれのニーズに合わせて、手遊び・わらべうた、おはなし会、館内見学を組み合わせる見学会を行ってきたが、令和2年度は、1回のみ実施し、参加者は5名だった。

○中高生向けの見学・調べもの体験プログラム

令和2年度は、中高生向けの館内見学を4件実施し、30名が参加した。そのうち2件は“図書館における調べもの”を短時間で体験できる「調べもの体験プログラム」も実施し、17名が参加した。

※<https://www.kodomo.go.jp/use/tour/youth.html>

○国際子ども図書館開館20周年記念 中高生向けトークイベント

3.2 子どものための連携イベント

上野公園地区に所在する近隣文化機関との連携により、読書に親しむきっかけとなるよう、子ども向けのイベントを実施した。

○子どものための音楽会

10月25日、東京都歴史文化財団東京文化会館との共催で、「Music Program TOKYO まちなかコンサート～芸術の秋、音楽さんぽ～」の一環として子どものための音楽会をレンガ棟3階ホールで開催した。子どもが親しみやすい選曲による木管五重奏を2回のプログラム（午後1時及び午後3時から40分ずつ）で演奏し、94名（18歳以上49名、18歳未満45名）が参加した。演奏終了後、国際子ども図書館児童サービス課職員が曲目に関連する絵本の読み聞かせを行った。



音楽会の様子

○Museum Start あいうえの ファミリープログラム キュッパ・チャンネル

東京都、東京都歴史文化財団東京都美術館、同アーツカウンシル東京及び東京藝術大学との共催により、令和2年度「Museum Start あいうえのプロジェクト」の一環として実施する予定であったファミリープログラムキュッパ・チャンネルは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

○子どものための絵本と音楽の会『おんがくかいのよる』

東京・春・音楽祭実行委員会との共催により、令和3年3月21日に開催する予定であった子どものための絵本と音楽の会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン形式とした。国際子ども図書館レンガ棟3階ホールで無観客収録した動画を3月31日～4月23日の期間中、東京・春・音楽祭公式サイトから配信した。絵本『おんがくかいのよる：5ひきのすてきなねずみ』の朗読に合わせて、サクソフォンとピアノの演奏を行い、視聴回数は1,185回であった。



収録準備の様子

3.3 子ども向けの情報発信

「国立国会図書館キッズページ」の「よんでみる？」のコーナーにコンテンツを10件追加した。

※<https://www.kodomo.go.jp/kids/index.html>

4 子どもの本のミュージアムとしての活動

児童書の持つ魅力を広く一般に紹介することを目的に、児童書に関する展示会を開催している。国際子ども図書館が主催する企画展示のほか、日本国際児童図書評議会（JBBY）など他機関から資料を借用して実施する巡回展示、共催による展示などがある。令和2年度は、「世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書 2019」、国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」、「子どもを健やかに育てる本 2020—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」、「スポーツと子どもの本」をレンガ棟3階本のミュージアムで開催した。このほか、子どものへや等の各資料室で、様々なテーマの下に小展示を行った。

4.1 館内展示

○世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書 2019

レンガ棟3階本のミュージアムで、7月28日から8月30日まで計29日開催し、入場者数は3,010名であった。資料は国際児童図書評議会（IBBY）の日本支部である日本国際児童図書評議会（JBBY）から借用し、障害のある子どもたちも楽しむことができるように作成されたバリアフリー図書の中から、IBBY 障害児図書資料センターが2019年に選定した世界20か国の40作品及び関連資料等を展示した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示ケース内に陳列した。



○国際子ども図書館開館20周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」

（p.29「国際子ども図書館開館20周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」参照）

○子どもを健やかに育てる本2020—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）

レンガ棟3階本のミュージアムで、令和3年1月12日から2月28日まで計38日開催し、入場者数は3,759名であった。厚生労働省との共催で、令和元年度に厚生労働省社会保障審議会が推薦した図書32作品を展示した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示ケース内に陳列した。



○スポーツと子どもの本

レンガ棟3階本のミュージアムで、令和3年3月9日から開始した。スポーツを主題とする絵本や児童文学、戦争や差別等の社会的テーマとスポーツとの関わりを描いた児童書の展示に加え、1964年の東京オリンピックを、当時出版された子ども向け雑誌等を通して振り返るほか、パラリンピックについて扱った児童書等を紹介し、全体で約180点の資料を展示した。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、従来会期中に定期的に開催していたギャラリートークに替え、展示資料の紹介動画を常時上映した。



○児童書研究資料室の小展示

児童書研究資料室では、利用者の興味・関心を深める一助とするため、レンガ棟3階本のミュージアムにおける展示会に関連した小展示を2回実施した。また、海外の児童文学賞受賞作品をテーマとした小展示を2回、海外の児童書に関する調査で外部の専門家が作成したブックリストに基づき収集した児童書の小展示を1回実施した。加えて、令和元年に日本国内の主要な児童文学賞を受賞した作品及び読書活動推進に関する児童サービスの基本資料を通年で展示した。



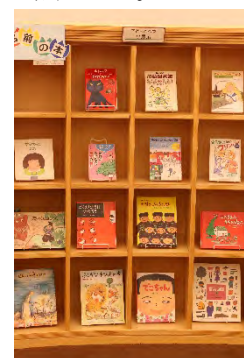
小展示「西アフリカの児童書〜ブックリストで収集した海外の児童書〜」

○児童書ギャラリーの小展示

児童書ギャラリーでは、明治から現代までの児童文学史と絵本史の流れに一層親しむことを目的に、特定の作家や画家等に関する小展示を「作家・画家コーナー」で行っている。令和2年度は神沢利子を紹介した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月29日から6月30日まで休室した。

○子どものへや・世界を知るへやの小展示

子どものへやでは季節や子どもの興味を引くテーマで小展示を行い、子どもたちが何度訪れても楽しめる工夫をしている。令和2年度は、来館サービスを再開した7月から「名前の本」「図書館と本」「よふけの世界」「どこに住みたい？」「新しいこと やってみよう！」の5回行った。世界を知るへやでは「IFLA 絵本で世界を知ろうプロジェクト」など4種類の小展示を常設しているのに加え開館20周年記念コンテンツ「SDGs と子どもの本—いま、図書館にできること」の公開にあわせてSDGs関連の本の展示を開始した。



小展示「名前の本」

○調べものの部屋の小展示

調べものの部屋では、2か月ごとにテーマを決め、入口のスタンドを利用して10冊程度の本を紹介するウェルカム展示を行っている。令和2年度は、7月から「塩」「夢」「海の幸」「手」「うた」の5回行った。そのほか、12月からSDGsに関する本の展示を開始した。また、近隣の施設で行われている展覧会に合わせたテーマで関連小展示を行った。

4.2 電子展示会

電子展示会「旧帝国図書館建築 100 周年記念展示会」は 12 月 18 日に提供を終了し、コンテンツの一部を国際子ども図書館ホームページ「建物の歴史」に再構成した。

5 国内外の諸機関との連携・協力、広報活動等

国際子ども図書館は、国内外の図書館や児童書等の関係機関と密接に協力しながら、主に「子どもに本を手渡す大人」への支援を通じて、子どもの読書活動を推進している。令和 2 年度は関係機関の協力を得て、次の取組を行った。

5.1 講演会等

○国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」関連講演会

([p.29「国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会関連講演会「絵本への期待—平成の絵本作家と編集者、そして読者—」](#) 参照)

○開館 20 周年記念メッセージの公開

([p.28「国際子ども図書館開館 20 周年記念メッセージ」](#) 参照)

○開館 20 周年記念コンテンツ「SDGs と子どもの本」

([p.30「国際子ども図書館開館 20 周年記念コンテンツ」](#) 参照)

5.2 広報活動

○VR 映像の期間限定公開

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和 2 年 3 月から休止中の館内ガイドツアーに代わるものとして、臨時休館中の 6 月に一般社団法人 VR 革新機構に依頼して館内を撮影作成した 5G 対応の 3D ビュー・VR 映像「夢の図書館—東京上野・国際子ども図書館をおうちで見学」を、6 月 23 日～12 月 28 日の期間、国際子ども図書館ホームページ上で公開した。8 月にはレンガ棟外観の追加撮影を行い、バージョンアップを図った。また、9 月～12 月に VR を使った国際子ども図書館クイズを計 8 回 Twitter で発信した。公開期間中のアクセス数は、合計 13,938 件であった。



○図書館総合展出展

11 月 4 日～6 日をコア日としてオンライン開催された第 22 回図書館総合展（11 月 1 日～30 日）において、総務部総務課と協力し、VR 映像「夢の図書館—東京上野・国際子ども図書館をおうちで見学」を用いたオンライン見学会を 11 月 6 日及び 16 日に実施した。施設案内の後に質疑応答の時間を設け、合計 115 名が参加した。



○上野文化の杜オンライン見学会

9 月 12 日、上野文化の杜が主催するオンライン見学会「国際子ども図書館 VR 建築ツアー」に国際子ども図書館担当者として参加し、案内を行った。事前に予約した 13 名が参加した。

5.3 関係者会議

○令和2年度子どもの本と読書に関する懇談会

令和3年2月10日に、「令和2年度子どもの本と読書に関する懇談会」を開催した。これは、「国際子ども図書館連絡会議」から名称を変更し、参加団体の関心の高いテーマで子どもの本と読書に関する最新動向の報告や意見交換を行うことを目的として、平成29年度から毎年度開催しているものである。

令和2年度のテーマは「新型コロナウイルス感染症禍の中の子どもの読書」とし、オンライン開催した。国際子ども図書館から新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を含む開館20年の取組を報告した後、テーマに基づき各参加機関も報告を行った。外部機関・団体の参加者は14機関・団体14名であった。

5.4 見学・案内

○議会関係者向けの案内

令和2年度は、議会関係者の来訪はなかった。

○一般向けの案内

個人向けのガイドツアー（毎週火・木曜日）、団体向け見学案内は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月から引き続き休止とした。

○図書館向けの案内

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書館向け見学案内を休止した。

○外国人向けの案内

令和2年度は、外国人の来訪はなかった。

○子ども向けの案内

[3.1 \(p.37\)](#) 参照

5.5 刊行物

令和2年度は、次のとおり刊行した。（タイトル五十音順）

○『国際子ども図書館の窓』第20号（2020年9月30日）（ホームページ掲載）

※https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11545639_po_2020-mado.pdf?contentNo=1&alternativeNo

○国際子ども図書館メールマガジン 186～205号（2020年4月～2021年3月）

※<https://www.kodomo.go.jp/about/mailmagazine/2020/index.html>

○児童文学連続講座講義録（2020年9月15日）（紙媒体で刊行及びホームページ掲載）

『令和元年度児童文学連続講座講義録「絵本からヤングアダルト文学まで—児童文学基礎講座」』

※<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11537684>

令和2年4月から令和3年3月までの主なできごと

令和2年

- 4月15日 来館利用サービス休止の延長（～5月20日）
- 5月20日 来館利用サービス休止の再延長（～6月10日）
- 5月5日 こどもの日における資料利用に係る全業務を休止
- 6月11日 児童書研究資料室の来館サービスを再開
開館20周年記念メッセージのパネル展示及び国際子ども図書館ホームページ上での公開
児童書研究資料室における児童用の視覚障害者等用電子資料（DAISY資料）の提供開始
- 6月23日 3Dビュー・VR映像「夢の図書館—東京上野・国際子ども図書館をうちで見学」の国際子ども図書館ホームページ上での公開（～12月28日）
- 7月1日 国際子ども図書館の全資料室の開室（整理券による入館制限）
- 7月17日 夏休み読書キャンペーン2020（～9月6日）
- 7月28日 展示会「世界のバリアフリー児童図書展—IBBY 選定バリアフリー児童図書2019」（～8月30日）
- 9月3日 令和2年度図書館情報学実習（～9月10日）
- 9月12日 上野文化の杜「国際子ども図書館 VR 建築ツアー」
- 9月15日 令和元年度児童文学連続講座講義録刊行
- 9月29日 国際子ども図書館開館20周年記念展示会「平成を彩った絵本作家たち」（～12月27日）
- 9月30日 『国際子ども図書館の窓』第20号刊行
- 10月25日 子どものための音楽会
- 11月6日 第22回図書館総合展図書館見学会_ONLINE（11月16日とも）
- 11月9日 国際子ども図書館児童文学連続講座「10代に手渡す物語—ヤングアダルト文学総論」（オンライン開催 ～10日）
- 11月15日 子どものための秋のおたのしみ会「カメの絵本の読み聞かせとカメの飼育員さんのおはなし」
- 11月29日 展示会関連講演会「絵本への期待—平成の絵本作家と編集者、そして読者—」（オンラインを併用して開催）
- 12月6日 国際子ども図書館開館20周年記念 中高生向けトークイベント「畠山重篤さんに聞いてみよう！おいしいカキフライを食べるには」
- 12月18日 電子展示会「旧帝国図書館建築100周年記念展示会」の提供終了
- 12月22日 リサーチ・ナビ「外国語に翻訳刊行された日本の児童書情報」の提供終了

令和3年

- 1月12日 展示会「子どもを健やかに育てる本2020—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」（～2月28日）
- 2月10日 子どもの本と読書に関する懇談会（オンライン開催）
- 3月5日 国際子ども図書館児童サービス研究交流会「ウィズコロナ時代の児童サービス」（録画した講義映像を配信 ～4月30日）
- 3月9日 展示会「スポーツと子どもの本」（～6月13日）
- 3月23日 開館20周年記念コンテンツ「SDGsと子どもの本—いま、図書館にできること」の公開
- 3月30日 「国際子ども図書館基本計画2021-2025」を策定
- 3月31日 子どものための絵本と音楽の会『おんがくかいのよる』（録画した映像を配信 ～4月23日）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった催物等

令和2年

- 3月24日 展示会「スポーツと子どもの本」（令和2年3月24日～6月28日）
- 5月5日 国際子ども図書館開館20周年記念講演会
- 10月6日 JLA 児童図書館員養成専門講座
- 10月17日 国際子ども図書館特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」（未定）
Museum Start あいうえの ファミリープログラム キュッパ・チャンネル

数字で見る国際子ども図書館

令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

(1) 国際子ども図書館所蔵統計（令和3年3月31日現在）

資料区分			所蔵数	
資料 情報課	図書 (単位：点)	日本語 (*1)	324,623	
		外国語 (*2)	中国語・朝鮮語資料	30,466
			アジア言語資料 (中国語・朝鮮語資料以外)	11,100
			欧米言語資料	81,545
			計	447,264
	逐次刊行物 (単位：タイトル、 カッコ内は点)	国内雑誌	1,872 (101,268)	
		外国雑誌	191 (11,154)	
		計	2,063 (112,422)	
	非図書資料 (単位：点)	マイクロ資料 (マイクロフィルム、マイクロフィッシュ等)	38,000	
		映像資料 (ビデオディスク、ビデオカセット等)	10,079	
		録音資料 (オーディオディスク、カセットテープ等) (*3)	3,697	
		機械可読資料 (光ディスク等)	7,321	
		楽譜資料	1,048	
		カード式資料 (カルタ等)	11,453	
		静止画資料 (紙芝居等)	21,477	
		点字・大活字資料	3,895	
	計	96,970		
	開架閲覧用資料 (単位：点) (*4)	児童書ギャラリー	21,196	
	貸出用資料 (単位：点)		2,163	
			365	
児童 サービス課	開架閲覧用資料 (単位：点)	子どものへや・世界を知るへや	30,031	
		調べものの部屋	16,289	
			13,742	
	貸出用資料 (単位：点)		5,588	

*1 児童書関連書（2006年9月以前選書分12,342点）を含む。

*2 児童書関連書（6,474点）を含む。言語別の所蔵数の計は収集整理システムによる採取のため、外国語の所蔵数と一致しない場合がある。

*3 教師用指導書のみである。

*4 日本語の児童書関連書（2006年10月以降選書分）及び児童関連誌並びに児童書ギャラリー用資料の合計点数である。

(2) 来館者統計

開館日 (日)	229
来館者 (人)	48,161
(うち 18 歳未満)	(9,517)

(4) 資料出納統計

国会サービス (点)	149
児童書研究資料室 (点)	15,201

(3) 各室利用統計

児童書研究資料室	開室日 (日)	229
	利用者 (人)	5,622
子どものへや・ 世界を知るへや	開室日 (日)	213
	利用者 (人)	30,645
児童書ギャラリー	開室日 (日)	213
	利用者 (人)	15,481
調べものの部屋	開室日 (日)	213
	利用者 (人)	16,559

(5) 複写サービス統計

(対象：国会サービス)

紙	件	4
	枚	14
プリント アウト	件	0
	枚	0
マイクロ	件	0
	フィルム (コマ)	0
	フィッシュ (枚)	0

(対象：一般)

紙	件	4,496
	枚	25,433
プリント アウト	件	866
	枚	22,028
マイクロ	件	0
	フィルム (コマ)	0
	フィッシュ (枚)	0

*調査及び立法考査局の依頼に基づくものである。

(6) 資料貸出統計

(対象：国会サービス)

貸出し (点)	62
---------	----

(対象：行政・司法各部門)

相互貸出し (点)	19
-----------	----

(対象：一般)

図書館間貸出し (点)	184	
学校図書館セット貸出し	件	170
	点	7,095
展示会出品資料貸出し	件	3
	点	1,095

(7) レファレンスサービス統計①

(対象：一般)

文書回答	処理文書 (通)	118
	処理 (件)	205
電話回答	受理 (件)	1,250
	(うち 18 歳未満)	(0)
	処理 (件)	1,523
	(うち 18 歳未満)	(0)
口頭回答	受理 (件)	5,989
	(うち 18 歳未満)	(410)
	処理 (件)	6,841
	(うち 18 歳未満)	(490)

(7) レファレンスサービス統計②

(対象：国会サービス)

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
調査局経由*	処理（件）	2

(対象：行政・司法各部門)

文書回答	処理文書（通）	0
	処理（件）	0
電話回答	受理（件）	0
	処理（件）	0
口頭回答	受理（件）	0
	処理（件）	0

*調査及び立法考査局で受付後、回付されたものである。

(8) 参観・見学統計*

国会議員、前・元議員	件	0	
	人	0	
その他の国会関係者	件	0	
	人	0	
行政・司法	件	0	
	人	0	
国内	個人	件	0
		人	0
		（うち 18 歳未満）	(0)
	団体	件	5
		人	35
		（うち 18 歳未満）	(35)
	図書館関係者	件	1
		人	1
		（うち 18 歳未満）	(0)
	地方自治体・地方議会関係者	件	0
人		0	
（うち 18 歳未満）		(0)	
海外（外国公館関係者を含む）	件	0	
	人	0	
	（うち 18 歳未満）	(0)	

*件数は、参加者に複数の種別が混在する場合、主たる種別のみ「1件」とし、他の種別については「0件」とする。

(9) 国際子ども図書館ホームページアクセス統計

https://www.kodomo.go.jp/以下の全コンテンツ	ページビュー（件）	3,856,670
トップページ（日本語版）	トップページへのアクセス（件）	630,604

「国際子ども図書館の窓」第1号～第20号総目次

(左から記事名、執筆者名、ページ番号)

第17号から、内容を活動報告中心のものにリニューアルし、電子版のみの刊行としました。第16号まで掲載していた調査・研究報告等については、国際子ども図書館ホームページ、国立国会図書館月報等で公表しています。

第1号 (2001年3月)

口絵 国際子ども図書館開館		
国際子ども図書館について	戸張 正雄	2
『国際子ども図書館の窓』発刊にあたって	亀田 邦子	3
国際子ども図書館開館記念特集—開館記念式典より—		
皇后陛下のお言葉		4
祝辞	バーバラ・シャリオット	8
国際子ども図書館が誕生するまで	和中 幹雄	12
「子どもと本と読書」—国際子ども図書館開館記念シンポジウム— (抄録)		15
IBBY コロンビア大会参加記	亀田 邦子	45
活動報告 (2000年5月～12月)		48
世界の児童書—コレクション紹介—		55
数字で見る! 国際子ども図書館		56
これから...		60
利用案内		61

第2号 (2002年3月)

口絵 国際子ども図書館全館オープンへ		
はじめに	富田 美樹子	2
国際子ども図書館のシンボルマークが決定!		3
全面開館に向けて		4
①施設案内 ②これからのサービス		
プランゲ文庫児童書展に向けて	山崎 美和	9
世界の児童書—蔵書紹介 アンデルセン『新・お話と物語』ほか3冊—池田宣政 (南洋一郎) コレクションから—	杉山 きく子	10
国際子ども図書館の見学	企画協力課企画係、資料情報課児童サービス係	14
国際子ども図書館建物のお話	市原 美奈子	18
国際子ども図書館ミュージアムの展開	服部 比呂美	19
「絵本ギャラリー」への招待 絵本ギャラリー「絵本は舞台」アンケート調査結果	山口 和人	25
投槍像裏話	市原 美奈子	30
アジア地域との連携へ向けて—アジア児童図書館員会議 2001から—	佐藤 尚子	31
活動報告 (2001年1月～12月)		33

上野図書館の戦前と戦後	市原 美奈子	40
数字で見る！国際子ども図書館		41
これから...		46
利用案内		47

第3号 (2003年3月)

口絵 全面開館を迎えて		
はじめに	富田 美樹子	2
特集 国際子ども図書館全面開館		
国際子ども図書館全面開館記念行事		3
なぜ今、昔話なのか 国際子ども図書館全面開館記念展示 「不思議の国の仲間たち—昔話から物語へ—」から	服部 比呂美	8
子どもの読書の状況と国際子ども図書館	堀川 照代	11
おはなし会のこと	山岸 和美	15
世界の児童書—蔵書紹介— ウィニングトン-イングラム コレクションの魅力	神宮 輝夫	16
トロント公共図書館オズボーンコレクションを訪ねて	永野 祐子	21
セット貸出物語—国民文化祭「理想の学校図書館」顛末記より—	山本 美千枝	22
出張報告 国際児童図書館と IBBY 大会	富田 美樹子	25
出張報告 ICDL シンポジウムに参加して	山口 和人	28
児童書総合目録事業の展開について	資料情報課情報サービス係	31
国際子ども図書館の外国の児童書 (第二資料室から)	江口 磨希	33
活動報告 (2002年1月～12月)		34
数字で見る！国際子ども図書館		41
これから...		46
利用案内		47

第4号 (2004年3月)

口絵 国際子ども図書館活動風景		
はじめに	富田 美樹子	2
「国際アンデルセン賞の軌跡」シンポジウム報告		3
「国際アンデルセン賞の軌跡」によせて	島 多代	5
展示会「未知の世界へ—児童文学にえがかれた冒険—」	展示班	8
児童サービスの現場から	島本 まり子	13
特集 あなたの「思い出の1冊」探します! —国際子ども図書館のレファレンス・サービス— ストーリー・レファレンスを中心に	資料情報課	14
忘れられないレファレンス	杉山 きく子	22
世界の児童書—蔵書紹介— 国際子ども図書館ロシア語児童書コレクション—田中かな子旧蔵資料を中心に	松谷 さやか	24
学校図書館セット貸出しの開始から1年が経過して (報告)	児童サービス課	28
活動報告 (2003年1月～12月)		34
数字で見る！国際子ども図書館		42

これから...	46
利用案内	47

第5号 (2005年3月)

口絵 国際子ども図書館行事風景		
はじめに	富田 美樹子	2
展示会「蓮の花の知恵—インドの児童文学」の概要		3
アジアと子どもの本	松居 直	4
「国際子ども図書館児童文学連続講座—当館所蔵資料を使って」を終了して	企画協力課協力係	7
「外国語に翻訳刊行された日本の児童書情報」—出版情報の収集と発信—	資料情報課	9
旧ユーゴスラビアの児童文学	田中 一生	11
フランスの児童図書の現状—5年間の選書リストから—	末松 氷海子	18
ちいさな子どものための絵本の時間	見形 宗子	25
ケニアの村に図書館をつくる	福本 友美子	26
出張報告 ボローニャ・ブックフェア参加記	千代 由利	29
世界の児童書—蔵書紹介— 国際子ども図書館洋雑誌コレクションから—『セント・ニコラス』—	千代 由利	32
活動報告 (2004年1月～12月)		34
数字で見る！国際子ども図書館		42
これから...		46
利用案内		47

第6号 (2006年3月)

口絵 国際子ども図書館の2005年		
はじめに	村山 隆雄	2
シンポジウム報告 バリアフリー図書の普及を願って—図書館と出版の協働		3
第一部 基調講演「やさしく読める図書の出版—スウェーデンの経験から」	ブロール・トロンバッケ	5
第二部 報告と討論から	攪上 久子	13
展示会「ロシア児童文学の世界」	「ロシア児童文学の世界」展示班	19
展示会「ロシア児童文学の世界」に寄せて 「パリーモスクワ」児童文学の交流	末松 氷海子	23
平成17年度「児童文学連続講座—当館所蔵資料を使って」を終了して—総合テーマ「日本児童文学の流れ」—	企画協力課協力係	28
世界の児童書—蔵書紹介— 国際子ども図書館コレクションから「ちりめん本」	江口 磨希	30
国際子ども図書館ホームページのリニューアル	企画協力課企画広報係	31
児童書デジタルライブラリーと児童書総合目録の公開資料拡大	資料情報課	32
出張報告 マレーシア、タイ、インドの図書館訪問記	増田 利恵	34
福岡から上野に来て	坂梨 秀子	36

活動報告 (2005年1月～12月)	37
数字で見る！国際子ども図書館	45
これから...	50
利用案内	51

第7号 (2007年3月)

口絵 国際子ども図書館の2006年		
はじめに	村山 隆雄	2
展示会 「もじゃもじゃペーターとドイツの子どもの本」	「もじゃもじゃペーターとドイツの子どもの本」展示班	3
上野の森に、いたずらっ子たちがやってきた—もじゃもじゃペーターとドイツの子どもの本」展に寄せて—	吉原 高志	6
展示会 「北欧からのおくりもの—子どもの本のあゆみ」	「北欧からのおくりもの」展示班	11
北欧の子どもの本—その豊かな世界	福井 信子	13
旧帝国図書館建築100周年記念行事	企画協力課企画広報係	17
イングラム・コレクションで学ぶ、初期のイギリス絵本	吉田 新一	19
遠くから眺めるハンガリーの児童図書事情	深谷 ベルタ	26
セミオーダーで承ります—子ども向け見学—	児童サービス課	32
絵本ギャラリー「江戸絵本とジャポニズム」「子どもの本 イメージの伝承」提供開始	企画協力課企画広報係	35
平成18年度「児童文学連続講座—当館所蔵資料を使って」総合テーマ「絵本の愉しみ—イギリス絵本の伝統に学ぶ—」を終了して	企画協力課協力係	36
活動報告 (2006年1月～12月)		38
数字で見る！国際子ども図書館		47
これから...		52
利用案内		53

第8号 (2008年3月)

口絵		
はじめに	齋藤 友紀子	1
2007年のハイライト		
科学をテーマに：展示会「大空を見上げたら—太陽・月・星の本」	「大空を見上げたら」展示班	3
展示会「ゆめいろのパレットIII—野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」	「ゆめいろのパレットIII」展示班	6
講演会「多文化社会における児童書・児童サービス」—アルダナ IBBY 会長を迎えて—	企画協力課企画広報係	8
平成19年度児童サービス連絡会—児童サービスの実際と課題—	児童サービス課	11
コラム 大好きな本に出会おう！—子どものへや・世界を知るへやの小展示—	石川 真理子	15
児童文学連続講座「絵本の愉しみ—アメリカ絵本の展開—」	企画協力課協力係	16

電子展示会「絵本ギャラリー」の新規コンテンツ「モダニズムの絵本 日常の中の芸術」	企画協力課企画広報係	18
特集：世界を知る		
ポーランドの児童書事情	小原 雅俊	19
オランダ・ベルギーの児童書	野坂 悦子	24
コラム ボローニャブックフェアでの出会いから	藤代 亜紀	29
エジプト、イランの児童書出版と児童サービス	酒井 貴美子	30
調査・研究報告		
戦中期「講談社の絵本」の〈子供知識絵本〉	吉田 新一	33
活動報告（2007年1月～12月）		38
数字で見る！国際子ども図書館		47
これから...		52
利用案内		53

第9号（2009年3月）

口絵 国際子ども図書館の2008年		
はじめに	齋藤 友紀子	1
2008年のハイライト		
展示会「チェコへの扉—子どもの本の世界」	「チェコへの扉」展示班	3
「チェコへの扉」展によせて	村上 健太	5
2006年度国際アンデルセン賞・IBBY受賞オーナーリスト展	「IBBY オーナーリスト2006」展示班	8
展示会「童画の世界—絵雑誌とその画家たち」	「童画の世界」展示班	9
平成20年度児童サービス連絡会—学校図書館への支援の実際と課題—	児童サービス課	12
児童文学連続講座—「日本の昔話」	企画協力課協力係	16
電子展示会「絵本ギャラリー」の新規コンテンツ「アメリカの絵本 黄金期への幕開け」	企画協力課企画広報係	18
「子どもと本の内外情報」発信中	企画協力課協力係	18
国際交流		
子どもと本をつなぐ人々との出会い—ミュンヘン国際児童図書館&第31回IBBY世界大会見聞記—	小沼 里子	19
出張報告：カナダの子ども読書推進活動とそれを支える組織	水戸部 由美	22
コラム 世界の訪問者との出会いから	中野 怜奈	25
調査・研究報告		
イランの児童図書	愛甲 恵子	26
ラテンアメリカ（スペイン語圏）の児童書	神戸 万知	31
コラム 童話のふるさと	宮川 健郎	36
活動報告（2008年1月～12月）		38
数字で見る！国際子ども図書館		47
これから...		53
利用案内		54

第10号（2010年3月）

口絵 国際子ども図書館の2009年		
はじめに	齋藤 友紀子	1
2009年のハイライト		
展示会「出発進行!『のりもの』本めぐりへ」	「出発進行!『のりもの』本めぐりへ」展示班	3
展示会「出発進行!『のりもの』本めぐりへ」に寄せて—鉄道博物館からの資料	佐藤 美知男	6
展示会「ゆめいろのパレットIV—野間国際絵本原画コンクール入賞作品 アジア・アフリカ・ラテンアメリカから」	「ゆめいろのパレットIV」展示班	8
世界をつなぐ子どもの本—2008年度国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト受賞図書展	「世界をつなぐ子どもの本」展示班	10
本の城—本と子どもと大人をつなぐ場所	ガンツェンミュラー 文子	11
平成21年度児童サービス連絡会—公共図書館への支援の実態と仮題—	児童サービス課	15
児童文学連続講座「いつ、何と出会うか—赤ちゃん絵本からヤングアダルト文学まで」	企画協力課協力係	19
いつ、何と出会うか—平成21年度児童文学連続講座の2日間—	宮川 健郎	20
電子展示会「絵本ギャラリー」の新規コンテンツ『『コードモノクニ』掲載作品検索』	企画協力課企画広報係	22
国際交流		
韓国国立子ども青少年図書館との交流事業		
1. 韓国国立子ども青少年図書館との業務交流	網野 美美	23
2. 小展示交流「韓国の子どものたちのお気に入りの本—韓国国立子ども青少年図書館が選んだ子どもの本」	児童サービス課	24
「読書人の国を造る」ことを目指す人たち~ローマ・ミラノ出張報告	小林 直子	26
調査・研究報告		
タイの子どもの本事情	竹内 より子	28
イスラエルの児童書	母袋 夏生	33
活動報告(2009年1月~12月)		38
数字で見る!国際子ども図書館		48
これから...		53
利用案内		54

第11号(2011年3月)

口絵 国際子ども図書館の歩み		
2000年~2010年		
国際子ども図書館開館10周年にあたって	長尾 真	1
希望を育むということ	齋藤 友紀子	2
開館10周年に寄せて		
次の10年に向かって	齋藤 友紀子	4
国際子ども図書館への期待	堀川 照代	9
開館10周年及び国民読書年記念催物		14
2010年のハイライト		

国際子ども図書館の情報発信	五十嵐 麻理世	21
シリーズ・いま、世界の子どもの本は？	企画協力課協力係	24
児童文学連続講座「日本の児童文学者たち」	宮川 健郎	26
電子展示会「絵本ギャラリー」「『コドモノクニ』掲載作品 検索」への画像追加	企画協力課企画広報係	29
国際交流		
本の文化を築く～インド・ニューデリーで開催の児童図書館 国際会議	石川 真理子	30
世界の仲間に聞いてみよう！～スウェーデン出張報告	小林 直子	32
第32回IBBY世界大会に参加して	青山 真紀	34
韓国国立子ども青少年図書館との交流事業	企画協力課協力係、児 童サービス課	36
コラム 桃太郎とロシア革命～スウェーデン語版ちりめん 本『桃太郎』をめぐって	酒井 貴美子	38
調査・研究報告		
トルコの児童書	片桐 早織	39
ベトナムの児童書	加藤 栄	44
活動報告（2010年1月～12月）		49
これから...		60
数字で見る！国際子ども図書館		61
グラフで見る！国際子ども図書館		66
国際子ども図書館利用案内		68
『国際子ども図書館の窓』第1号～第10号		69
総目次		

第12号（2012年9月）

口絵 国際子ども図書館の活動		
2011.1-2012.3		
はじめに	坂田 和光	1
調査・研究報告		
震災と子ども読書・学校図書館支援	河西 由美子	3
アイルランド児童文学のいま：民族の「記憶」を子どもた ちに伝えるために	森野 聡子	8
ラトビアの児童書事情	黒沢 歩	18
インドネシアの児童書事情：現状と歴史的背景	シルヴィア・チョクロ ワティ・ミヒラ	29
2011年度児童サービス協力フォーラム～公共図書館による 学校・学校図書館に対する学習支援～	児童サービス課	39
「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る 歩み」展を企画して	宮川 健郎	42
小さな“コレクション展示”の試み—「ヴィクトリア朝の子ど もの本：イングラムコレクション」を開催して—	藤本 和彦	47
コラム 東日本大震災と国際子ども図書館	飛田 由美	52
国際交流		
カリブの島で国際交流！第77回国際図書館連盟（IFLA）年 次大会 参加報告	小林 直子	54

講演会「占領期の児童図書：プランゲ文庫児童書コレクション」	企画協力課協力係	57
外国からのおもな来訪者	企画協力課協力係	60
コラム 児童雑誌がデジタル化されるまで	伊藤 裕子	61
2011年1月から2012年3月までのできごと		63
活動報告		65
数字で見る！国際子ども図書館		83
国際子ども図書館利用案内		89

第13号 (2013年9月)

口絵 国際子ども図書館の活動 平成24年4月～平成25年3月		
はじめに	坂田 和光	1
調査・研究報告		
児童サービス協力フォーラムの3年間	堀川 照代	3
近年のイギリスの児童書： クロスオーバー現象とダークファンタジー	笹田 裕子	8
ウルドゥー語児童書の歴史と現状	村上 明香	17
外国の児童書に描かれた日本—外国書担当の驚き	酒井 貴美子	27
コラム 『子どもの本は世界の架け橋』—ミュンヘン国際児童 図書館研修報告—	中野 怜奈	38
ハイライト		
講演会「東日本大震災と子どもの読書を考える」	企画協力課協力係	40
「セント・ニコラス：世界の子もたちが集った雑誌」展	西尾 初紀	43
10周年を迎えた学校図書館セット貸出し	高宮 光江	46
国際交流		
第78回国際図書館連盟（IFLA）年次大会参加報告	飛田 由美	49
第33回IBBY世界大会に参加して	坂田 和光	52
外国からのおもな来訪者	企画協力課協力係	55
コラム 連携イベントで広がる世界	浜田 久美子	56
平成24年4月から平成25年3月までのできごと		59
活動報告		61
数字で見る！国際子ども図書館		77
国際子ども図書館利用案内		81

第14号 (2014年9月)

口絵 国際子ども図書館の活動 平成25年4月～平成26年3月		
はじめに	佐藤 毅彦	1
調査・研究報告		
モンゴルの児童書事情	津田 紀子	3
死を描いた児童書——『ホワイト・レイブンス』、ドイツ児童 文学賞受賞・ノミネート作品を中心に	中野 怜奈	13
在外研究報告：欧州の児童書専門機関の取組について	平澤 大輔	24

コラム 国際子ども図書館で行う「ちいさな子どものための わらべうたと絵本の会」	大森 尚美	33
ハイライト		
平成 25 年度児童サービスワークショップ	児童サービス課	36
「絵本で知る世界の国々—IFLA からおくりもの」展	飛田 由美	40
三つのケース展示に見る 21 世紀の日本の絵本	広松 由希子	43
国際交流		
第 79 回国際図書館連盟 (IFLA) 年次大会参加報告	飛田 由美	46
韓国国立子ども青少年図書館との業務交流に参加して	橋詰 秋子	48
講演会「トルコにおける児童書の執筆と出版」	企画協力課	51
外国からの主な来訪者	企画協力課	54
コラム シンハラ語の絵本：スリランカと日本の架け橋	藤代 亜紀	55
平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までの主な出来事		58
活動報告		60
数字で見る！国際子ども図書館		76
国際子ども図書館利用案内		80

第 15 号 (2015 年 9 月)

口絵 国際子ども図書館の活動 平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月		
はじめに	佐藤 毅彦	1
調査・研究報告		
いま、スペイン語圏の子どもの本は	宇野 和美	3
ペルーの児童書事情	星野 由美	16
中東・中央アジアの児童書事情 (出張報告)	山本 直樹	26
ハイライト		
「子どもの読書活動推進支援計画 2015」を策定しました	国際子ども図書館	33
講演会「わたしの物語作法—「古き」ベルリンの若者たちの 今」	企画協力課	36
クラウス・コルドンが描く時代の万華鏡	酒寄 進一	39
ドイツの子どもとクラウス・コルドン	マライ・メントライン	45
平成 26 年度子ども読書連携フォーラム	児童サービス課	49
電子展示会「中高生のための幕末・明治の日本の歴史事典」 提供開始	児童サービス課	53
児童書検索に役立つデータベースの御紹介	資料情報課	54
国際交流		
第 80 回国際図書館連盟 (IFLA) 年次大会報告	西尾 初紀	59
第 34 回 IBBY 世界大会に参加して	佐藤 毅彦	63
イタリア公共図書館における児童サービス	中島 尚子	65
平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までの主なできごと		71
活動報告		72
数字で見る！国際子ども図書館		85
国際子ども図書館利用案内		88

第16号 (2016年9月)

口絵 国際子ども図書館の活動 平成27年4月～平成28年3月		
はじめに	本吉 理彦	1
ハイライト		
国際子ども図書館のリニューアルと新しいサービス	松浦 茂	3
国際子ども図書館拡充整備事業について～新館「アーチ棟」増築と既存棟「レンガ棟」改修～	国立国会図書館総務部 管理課	11
国際子ども図書館リニューアル記念展示会「現実へのまなざし、夢へのつばさ：現代翻訳児童文学の半世紀」	西尾 初紀	21
児童書研究資料室の開室	資料情報課	28
調べものの部屋の開室	堤 真紀	33
スマホ世代は非デジタルな情報探索を楽しめるのか～調べものの体験プログラムが試みたこと～	舟串 宙	40
児童書ギャラリーの開室	資料情報課	46
コラム 書庫資料の移転作業	江口 磨希	51
国際交流		
第2回フィリピン国立図書館児童図書館員会議に参加して講演会「オランダの子どもの本—小さな子どもに大きなテーマを差し出すとき」—マリット・テルンクヴィスト・人と作品	北村 弥生 長山 さき	54 56
国際子ども図書館リニューアル記念講演会「イギリスの絵本作家 エミリー・グラヴェット—絵に生きる」	中島 尚子	61
平成27年4月から平成28年3月までの主なできごと		66
活動報告		68
数字で見る！国際子ども図書館		77
国際子ども図書館利用案内		80

第17号 (2017年9月29日)

はじめに	本吉 理彦	2
活動報告		
1. 児童書専門図書館としての活動		
1.1 資料・情報センターとしての機能		4
1.2 子どもの読書活動推進の支援		6
1.3 国際的な交流活動		8
2. 子どもと本のふれあいの場としての活動		
2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス		9
2.2 子どものための連携イベント		11
2.3 子ども向けの情報発信		12
3. 子どもの本のミュージアムとしての活動		
3.1 館内展示		12
3.2 電子展示会		14
4. 内外諸機関との連携・協力、広報活動等		

4.1 講演会	14
4.2 広報活動	17
4.3 関係者会議	17
4.4 見学・案内	18
4.5 刊行物	18
平成 28 年 4 月から 29 年 3 月までの主なできごと	19
数字で見る！国際子ども図書館	20
国際子ども図書館利用案内	23

第 18 号 (2018 年 10 月 31 日)

はじめに	寺倉 憲一	2
活動報告		
1. 児童書専門図書館としての活動		
1.1 資料・情報センターとしての機能		4
1.2 子どもの読書活動推進支援		6
1.3 国際的な交流活動		8
2. 子どもと本のふれあいの場としての活動		
2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス		9
2.2 子どものための連携イベント		10
2.3 子ども向けの情報発信		11
3. 子どもの本のミュージアムとしての活動		
3.1 館内展示		12
3.2 電子展示会		13
4. 内外諸機関との連携・協力、広報活動等		
4.1 講演会		14
4.2 広報活動		15
4.3 関係者会議		16
4.4 見学・案内		16
4.5 刊行物		16
平成 29 年 4 月から 30 年 3 月までの主なできごと		17
数字で見る！国際子ども図書館		18
国際子ども図書館利用案内		21

第 19 号 (2019 年 9 月 30 日)

はじめに	寺倉 憲一	2
活動報告		
1. 児童書専門図書館としての活動		
1.1 資料・情報センターとしての機能		4
1.2 子どもの読書活動推進支援		6
1.3 国際的な交流活動		8
2. 子どもと本のふれあいの場としての活動		
2.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス		10
2.2 子どものための連携イベント		11
2.3 子ども向けの情報発信		12

3. 子どもの本のミュージアムとしての活動	
3.1 館内展示	12
4. 国内外の諸機関との連携・協力、広報活動等	
4.1 講演会	14
4.2 展覧会	15
4.3 広報活動	16
4.4 関係者会議	16
4.5 見学・案内	16
4.6 刊行物	17
平成30年4月から31年3月までの主なできごと	18
数字で見る！国際子ども図書館	19
国際子ども図書館利用案内	22

第20号 (2020年9月30日)

はじめに	堀 純子	2
活動報告		
1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応		4
2. 児童書専門図書館としての活動		
2.1 資料・情報センターとしての機能		4
2.2 子どもの読書活動推進支援		6
2.3 国際的な交流活動		8
3. 子どもと本のふれあいの場としての活動		
3.1 子どもの成長段階に応じた館内サービス		9
3.2 子どものための連携イベント		10
3.3 子ども向けの情報発信		11
4. 子どもの本のミュージアムとしての活動		
4.1 館内展示		12
5. 国内外の諸機関との連携・協力、広報活動等		
5.1 講演会		13
5.2 広報活動		15
5.3 関係者会議		15
5.4 見学・案内		16
5.5 刊行物		16
平成31年4月から令和2年3月までの主なできごと		17
数字で見る！国際子ども図書館		19
国際子ども図書館利用案内		22

国際子ども図書館利用案内

新型コロナウイルス感染症拡大の状況によりサービスに変更が生じる場合があります。

最新情報は国際子ども図書館ホームページでご確認ください。

国際子ども図書館ホームページ <https://www.kodomo.go.jp/>

電話 03 (3827) 2053 (代表) 03 (3827) 2069 (音声による利用案内)

★来館利用 ホームページ > 利用案内

問合せ先 : 企画協力課

開館時間 : 9:30~17:00 資料請求 : 9:30~16:30 (児童書研究資料室)

複写受付 : 10:00~16:00 (後日郵送複写のみ 16:30 まで) 複写製品引渡し : 10:00~12:00、13:00~16:30

休館日 : 月曜日、国民の祝日・休日 (こどもの日は開館)、年末年始、毎月第3水曜日

所蔵資料 : 国内刊行児童図書・雑誌、外国語の児童図書・雑誌、児童書関連図書・雑誌等

※資料の利用は館内のみ。館外への帯出はできません。

★レファレンス・資料案内 ホームページ > 本・資料を探す > レファレンス・サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、文書 (図書館経由)、電話

※児童書・児童文学、児童図書館活動等に関する問合せにお答えします。

※資料を直接確認しなければならないなど時間を要する調査及び聞き間違いが生じやすい外国語文献についてのレファレンスなどは文書でお申込みください。

★資料の複写 (有料) ホームページ > 利用案内 > 複写サービス

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

申込方法 : 来館、国立国会図書館オンライン経由 (登録利用者・機関のみ)
郵送 (登録利用者・機関のみ)

★資料の図書館間貸出し ホームページ > 利用案内 > 図書館間貸出し

問合せ先 : 資料情報課情報サービス係

※「図書館間貸出制度」に加入している図書館のみ利用できます。

※雑誌や昭和25年以前刊行の図書など貸出しができない資料もあります。

★見学・体験 (調べもの体験プログラム) ホームページ > 利用案内 > 見学・体験

問合せ先 : 企画協力課広報係 (一般向け)

児童サービス課児童サービス企画係 (中高生向け)

児童サービス課児童サービス運営係 (幼稚園・保育園・小学校向け)

★学校図書館セット貸出し ホームページ > 子どもの読書活動推進 >

国際子ども図書館における実践 > 学校・学校図書館へのサービス > 学校図書館セット貸出し

問合せ先 : 児童サービス課児童サービス企画係

国際子ども図書館の窓 第21号

2021年10月1日発行

発行 国立国会図書館

編集 国立国会図書館国際子ども図書館

〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-49

電話 03 (3827) 2053 (代表)

FAX 03 (3827) 2043

本誌に掲載された記事を全文又は長文にわたり抜粋して転載される場合には、
事前に国際子ども図書館企画協力課広報係までご連絡ください。

The Window
the journal of the International Library of Children's Literature
No.021 October 2021

Contents

【Commemorating the 20th anniversary of the ILCL】	Motonobu Yoshinaga.....1
【Introducing all children to the appeal of reading】	Junko Hori.....2
【Special feature: The 20th anniversary of opening of the ILCL】	
The history of the ILCL and its future	Junko Hori.....5
The Basic Plan of the ILCL for 2021-2025	Yayoi Kitamura.....8
Upon the 20th anniversary of the ILCL- from users' viewpoint	Sumiko Shirai.....10
【The 20 years of the ILCL】	
1. The history of collection building as a national center of resources and information on children's books	Resources and Information Division.....14
2. The history of services connecting children and books	Children's Services Division.....18
3. The history of exhibitions	Materials and Information Division.....22
【Exhibitions and events to commemorate the 20th anniversary】	
20th anniversary commemorative messages put on view	Planning and Cooperation Division.....28
The 20th anniversary commemorative exhibition: Japanese Picture Book Authors of the Heisei Era (1989-2019)	Resources and Information Division.....29
The 20th anniversary commemorative exhibition lecture: Hopes for Picture Books—Picture Book Authors, Editors and Readers in the Heisei Era (1989-2019)	Resources and Information Division.....29
The 20th anniversary commemorative talk event for teens	Children's Services Division.....29
The 20th anniversary commemorative project—SDGs and Children's Books: What Libraries Can Do	Planning and Cooperation Division.....30
【ILCL activity report】32
【List of events and activities; April 2020 - March 2021】42
【ILCL in figures】43
【Complete list of contents of <i>The Window</i> No. 001~020】46
【ILCL user guide】58

International Library of Children's Literature,
National Diet Library,
Tokyo